

第6章 50代就業者のキャリアの意味づけ—自由記述データを用いた検討

1. 本章の目的

本研究では、50代の就業者に過去の職業生活を振り返ってもらい調査を行い、その調査結果をもとに成人キャリア発達の特徴や課題について検討することを目的とした。本章では、その検討の1つとして、自由記述データの分析を行うこととする。

自由記述データの分析を行う理由を以下の3点に集約される。

第一に、50代就業者が自らのキャリアをどのように意味づけるのかを、質問項目と選択肢を提示して回答を求めるいわゆるアンケートとは異なる形でとらえたいと考えた。調査者側で質問項目と選択肢を提示し、その結果を集計する方法は、調査者側が入手したいと考えている情報を効率よく効果的に収集することができる。特に結果が客観的な数値で示されるため、回答者の意見分布を把握しやすく、明確な結果が得られる。一方で、調査者側から提示された枠組み以上の情報を得ることは難しい。そのため、回答者が問題をどのように認識し、どのような意味づけを与え、どのような考えをもっているのかを、回答者の枠組みにそった形で捉えることができない。そこで、本章では自由記述データの分析を行い、客観的な数値による結果の明確さを欠くこととなる代償に、回答者本人の問題の捉え方を、回答者本人の記述をもとに分析する手法をとることとした。

第二に、特に、50代の就業者から振り返られたキャリアは、極めて多様であることが推測される。例えば、近年のキャリアガイダンスでは若年者に特に注目が集まっており、学校から職業への移行、さらに職場への定着が大きな問題となっている。しかし、一方で、学校を卒業して就職し、職業に適応するという課題そのものは、若年者に比較的共通のものであり、その点、若年者のキャリアガイダンス上の課題というのは比較的単純であるとも言える。それに対して、その後の30代から40代では、結婚をし、家族をもつという個人生活が職業生活に大きな影響を与えるようになる。また、職業生活そのものも、30代の半ばを過ぎた頃から順調にキャリアを積み重ねる者、やむを得ずキャリアが分断される者、転職や離職の形でキャリアを大幅に変更する者など、個人による多様性が大きくなる。以上のことから、50代の就業者によって振り返られた成人キャリアを検討するにあたっては、通常の質問項目だけでなく、自由記述データのような質的なデータを用いて、個々人のキャリアの多様性をできるだけ把握できるような手法を用いるのが望ましい。

第三に、現在、自由記述データの分析は、以前と比べれば、その手法が洗練され、精緻化されてきたということがある。従来、自由記述データの分析は、回答者が自由に記述したデータをその内容の類似性からまとめあげ、一覧表の形で資料として掲載するという手法がとられた。そうした内容面の分析は、回答者が直に記述した結果であるので、その内容を読み連ねることによって、いかにも回答者の真の声に肉薄しているように思えた。研究目的によっては、そうした手法は今なお重要であるものの、分析結果に必要な最低限の客観性や厳密性

が保証されず、その点、分析結果が恣意的となる傾向は否めない。この点について、本章では、現在、急速に分析方法が確立しつつあるテキスト・マイニング的な手法を用いて、自由記述欄に記入された回答にどのような「語句」が出てくるのかに特に焦点を当てて検討を進めることとした。具体的には、樋口耕一氏によって開発・公開されているフリーソフトウェアである「KH Coder」(<http://khc.sourceforge.net/index.html>)を用いて、自由記述を単語ごとにばらして、頻出する単語の数を数え上げ、統計的な分析を行い、その上で、各自由記述欄の回答内容を見ていくという手法をとることとした。

以上の問題意識に基づいて、本章では、自由記述データを用いて、50代就業者によって振り返られた成人キャリアについて検討を行うこととした。

2. 本章で分析する自由記述課題

本調査では、回答者に対して、以下の設問で自由記述を求めた。

問25. 「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」について、以下の質問にお答えください。

(1) 何歳頃のことですか。

(2) どのような出来事ですか。

(3) それを、どのように乗り越えましたか。

(4) その際、どのような助けや支援（制度などを含む）があれば良かったと思いますか。

問26. 以下の書き出しに続く空欄に、あなたの現在の感じ方・考え方を表す文章を、自由に書き足してください。

(1) これまでの職業生活で後悔することは、

(2) これまでの職業生活で最も良かったと思うことは、

(3) これまでの職業生活で最も役に立った能力は、

以上の設問のうち、問25は一般的な自由記述形式の設問である。「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」を想起させ、それについて詳しく聞く形の設問になっている。心理学研究法における「場面想定法」と類似した設問となっている。

一方、問26は、心理学における研究手法として知られた「文章完成法課題」の形式になっている。例えば、問26(1)では「これまでの職業生活で後悔することは、」という刺激文を与えて、続く文章を書いてもらうことで文章を完成させるという課題になっている。

上記の設問によって、本研究では、(1)過去の職業生活上の危機「年代」「出来事」「どのように乗り越えたか」「どのような助けや支援があれば良かったか」、(2)職業生活上の「後悔」「最も良かったと思うこと」「最も役に立った能力」、(3)「今、いちばんやってみたいこと」「今後、やってみたいと思うこと」「これからの人生で不安や心配に感じること」をたずねた。

本章では、これらの自由記述データを分析するにあたって、以下の3つの分析課題を設定することとした。

することとするが、分析にあたって、以下の3つの分析課題を設定した。(1)過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じることについて、それが何歳頃のどのような出来事で、どのように乗り越えたのか、また、どのような支援があれば良かったかを検討する。(2)これまで

3. 過去の職業生活上の危機について

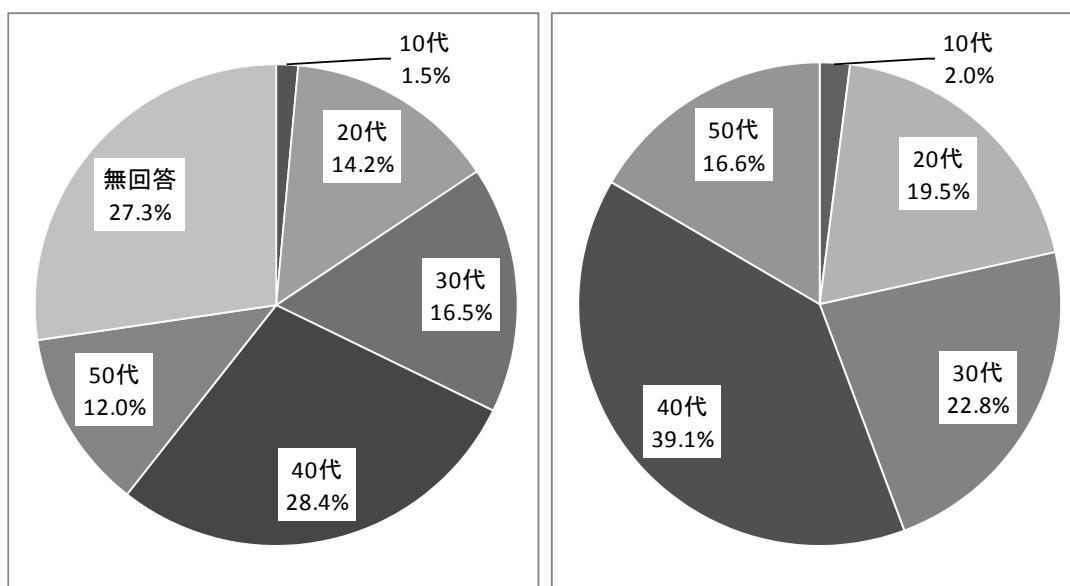
(1) 職業生活上の危機だったと感じる年代

過去の職業生活における危機が何歳頃だったかに関する回答結果を、図表6-1に示した。職業生活における危機に関する自由記述に回答を全く行わなかった「無回答」の者が全体の約1/4(26.1%)程度あった。何らかの形で自由記述を行った回答者のうち、最も職業生活上の危機であったと報告された年代は「40代」であり、39.1%であった。

従来から「中期キャリアの危機」として40代の職業生活上の危機が指摘されることが多かったが、本調査の結果からも確認された。

ただし、職業生活上の危機を報告しなかった「無回答」も比較的多く、その点を加味した場合には、「無回答」職業生活上の危機を報告しない者と40代が危機だったと報告した者が約1/4ずつ、20代、30代、50代が危機だったと報告した者がそれぞれ1割程度と考えておくことができる。むしろ、職業生活上の危機については、①無回答という反応が一定数あり、職業生活上の危機がある場合には、②40代を中心としながらも20~50代まで全年代にわたって一様に危機として報告しうる出来事が生じていたという見方もできる。

図表6-2には、過去の職業生活における危機の年代と関連が深い要因を表にしたものである。分析の結果、危機の年代と関連が深い要因は、学歴と現在の職業であった。図表6-2に示したとおり、最終学歴が「中卒・高卒」の回答者は「10代」が危機であったと回答する割合が高く、「大学・大学院卒」の回答者は「40代」が危機であったと回答する割合が高かった。また、現在、「専門的・技術的職業」の回答者は「30代」、「管理的職業」の回答者は「40代」、「生産工程・建設などの職業」の回答者は「10代」が危機であったと回答する割合が高かった。概して言えば、学歴が高い者、専門的・技術的職業または管理的職業に就いている者は30代または40代で危機を報告する者が多かったと考えられる。



図表6-1 職業生活上の危機は「何歳頃のことですか」に対する回答
(左:無回答含む、右:無回答除く)

図表6-2 職業生活上の危機の年代と学歴および現在の職業との関連

	中卒 高卒 N=635	短大 高専 専門卒 N=233	大学 大学院卒 N=619
10代	3.9%	1.7%	0.2%
20代	21.6%	21.0%	17.0%
30代	20.9%	24.5%	24.1%
40代	35.9%	36.9%	43.1%
50代	17.6%	15.9%	15.7%

※残差分析の結果、5%水準で有意に値が大きい箇所^①に網かけ、小さい箇所^②に下線を付した。

	専門的 技術的 職業 N=328	管理的 職業 N=358	事務的 職業 N=248	販売 サービス の職業 N=137	生産工程 建設など の職業 N=292	その他 N=124
10代	0.6%	0.8%	2.4%	2.9%	4.1%	2.4%
20代	22.6%	15.6%	21.0%	19.0%	18.5%	23.4%
30代	27.4%	22.3%	19.4%	22.6%	23.6%	15.3%
40代	33.5%	45.8%	41.5%	37.2%	37.3%	36.3%
50代	15.9%	15.4%	15.7%	18.2%	16.4%	22.6%

※残差分析の結果、5%水準で有意に値が大きい箇所^①に網かけ、小さい箇所^②に下線を付した。

(2) 職業生活上の危機だったと感じる出来事

図表6-2には、「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」は「どのような出来事ですか」に関する自由記述に出現する頻度の高かった語句を示した。表から、最も出現頻度の高かった語句は「仕事」であり、以下「会社」「関係」「倒産」「転職」と続いていた。概して言えば、過去の職業生活上の危機は「会社」での「仕事」面のことであり、その中に

は「倒産」や「転職」、「上司」との「人間」「関係」などが含まれる。「病気」「退職」「リストラ」なども、それらに続いて多い職業生活上の危機であると考えておくことができる。

図表6-3 職業生活上の危機は「どのような出来事ですか」に関する
自由記述で出現頻度の高かった語句

仕事	260	子供	21	社員	14
会社	253	体調	21	移動	14
関係	100	給料	20	出産	14
倒産	87	失敗	20	赴任	14
転職	86	出向	20	精神	13
人間	79	変更	20	責任	13
上司	78	希望	19	管理	13
病気	51	社長	18	経験	13
退職	61	危機	17	子育て	13
自分	52	収入	17	大変	13
リストラ	51	対人	17	不安	13
職場	50	単身	17	不景気	13
就職	41	悪化	17	不振	13
転職	38	合併	17	バブル	12
トラブル	35	残業	17	技術	11
内容	33	パート	16	職種	11
入院	33	業績	16	不良	11
部署	30	業務	16	ストレス	10
営業	30	事業	16	パソコン	10
勤務	29	部門	16	正社員	10
経営	27	失業	16	借金	10
事故	26	家業	15	生活	10
不況	25	部下	15	廃業	10
配属	23	両立	15	配置	10
異動	22	交通	14	離婚	10

(3) 職業生活上の危機だった出来事の要因別の検討

職業生活上の危機に関する自由記述で出現頻度の高かった語句を、いくつかの主だった要因別に検討した。

まず、図表6-3には、性別、危機を経験した年代、昨年の年収別の結果を示した。その結果、以下の3点が示された。

①男性は「会社」「転職」「リストラ」の語句を使用する割合が高く、女性は「関係」「人間」「就職」の語句を使用する割合が高かった。

②過去の職業生活上の危機は20代にあったと回答した者は「転職」の語句を使用する割合が高く、40代および50代では「リストラ」、50代では「入院」を使用する割合が高かった。

③昨年の年収が400万円以下と回答した者は「倒産」「リストラ」「就職」、400～600万円と回答した者は「会社」「退職」、600～800万円と回答した者は「職場」、800万円以上と回答した者は「上司」「内容」を使用する割合が高かった。概して、年収が高いほど職場内での危機、年収が低いほど雇用そのものをめぐる危機が記述されやすいと解釈される。

図表6-4 職業生活上の危機だった出来事に関する自由記述で
出現頻度の高かった語句の性別、危機を経験した年代別、昨年の年収別の検討

性別	男性 N=1532	女性 N=518
「会社」	14.2%	6.2%
「関係」	4.1%	7.1%
「転職」	5.0%	1.9%
「人間」	3.1%	6.0%
「リストラ」	2.9%	1.4%
「就職」	1.2%	4.1%

危機を経験した年代	10代 N=30	20代 N=291	30代 N=339	40代 N=583	50代 N=247
「転職」	0.0%	9.3%	5.9%	5.7%	1.6%
「リストラ」	0.0%	0.3%	1.8%	5.0%	6.1%
「入院」	3.3%	2.7%	0.9%	1.5%	4.5%

昨年の年収	～400万円 N=569	～600万円 N=495	～800万円 N=417	800万円 以上 N=539
「会社」	13.0%	15.6%	10.8%	9.5%
「倒産」	6.7%	5.1%	2.9%	2.0%
「上司」	1.9%	2.8%	4.3%	6.3%
「退職」	3.7%	4.8%	1.2%	1.9%
「リストラ」	3.9%	3.4%	1.7%	0.9%
「職場」	0.7%	2.0%	4.1%	3.5%
「就職」	3.9%	1.4%	1.2%	1.1%
「転勤」	0.7%	1.2%	2.9%	2.6%
「内容」	0.7%	0.6%	2.4%	2.6%

※残差分析の結果、5%水準で有意に値が大きい箇所^①に網かけ、小さい箇所^②に下線を付した。

次に、図表6-5には、職業生活上の危機に関する自由記述で出現頻度の高かった語句を、初職の勤務先の規模および現在の勤務先の規模別に検討した結果を示した。その結果、以下の2点が示された。

①初職の勤務先の規模が50人未満と回答した者は「倒産」、1000人以上と回答した者は「内容」の語句を使用する割合が高かった。

②現在の勤務先の規模が50人未満と回答した者は「リストラ」、300人未満と回答した者は「会社」、1000人以上と回答した者は「トラブル」「部署」の語句を使用する割合が多かった。概して、勤務先の規模が大きいほど部内のトラブル、小さいほど雇用そのものをめぐる危機が記述されやすいと解釈される。

図表6-5 職業生活上の危機だった出来事に関する自由記述で
出現頻度の高かった語句の初職の勤務先の規模別、現在の勤務先の規模別の検討

初職の 勤務先規模	50人未満 N=489	300人未満 N=511	1000人 未満 N=363	1000人 以上 N=674
「倒産」	7.2%	4.3%	5.0%	1.6%
「内容」	0.4%	0.8%	1.7%	3.0%

現在の 勤務先規模	50人未満 N=636	300人未満 N=521	1000人 未満 N=335	1000人 以上 N=548
「会社」	12.4%	15.7%	12.2%	8.2%
「倒産」	5.3%	5.6%	4.8%	1.3%
「リストラ」	4.2%	2.3%	0.9%	1.5%
「就職」	2.4%	2.9%	0.3%	1.6%
「転勤」	0.3%	2.5%	2.7%	2.4%
「トラブル」	0.8%	1.3%	1.5%	3.1%
「部署」	0.6%	0.8%	1.5%	3.1%

※残差分析の結果、5%水準で有意に値が大きい箇所¹に網かけ、小さい箇所²に下線を付した。

(4) 職業生活上の危機だった出来事で使用される語句の関連性の検討

上で分析した語句の中には、1人の回答者の自由記述内で同時に出現する語句もあると考えられた。そこで、カテゴリ変数間の連関を示すφ係数を求めて、相互に関連が深い語句を検討した。

図表6-6に示したとおり、職業生活の危機だった出来事に関する自由記述で、同じ回答者によって同じ自由記述内に用いられた語句は「人間」と「関係」であった。以下、「倒産」と「会社」、「内容」と「仕事」と続いていた。

図表6-6 職業生活上の危機だった出来事に関する自由記述で
同じ回答者の自由記述内で用いられやすかった語句

		φ係数
「人間」	「関係」	.849
「倒産」	「会社」	.369
「内容」	「仕事」	.264
「職場」	「関係」	.184
「入院」	「病気」	.182
「内容」	「自分」	.180
「職場」	「人間」	.165
「トラブル」	「関係」	.148
「自分」	「仕事」	.138
「トラブル」	「上司」	.115

※φ係数は全てp<.01で有意

図表6-7は、同じ回答者が同じ自由記述内に用いやすかった語句の具体的な記述内容を例示したものである。特に記述量が多い自由記述上位5位を例示した。この表から、過去の職業生活上の危機として「職場の人間関係」「会社の倒産」「仕事の内容」「病気による入院」

が主だったものとしてあるということが推測される。

図表6-7 職業生活上の危機だった出来事に関する自由記述で
同じ回答者の自由記述内で用いられやすかった語句の自由記述例

人間-関係	慣れない場所で、仕事についても解からないことだらけ。長時間勤務また、 人間関係 もギクシャクして、ストレスがたまり、病気になった。(51歳男性・専門) 学校出てすぐ就職した会社を何も調べず、仕事内容もわからず入った為、仕事内容が自分に合わなく、 人間関係 もむずかしかった事。(59歳女性・事務) 人間関係 。銀行でのパートでしたが、支店での仕事を長く働いているパートの人が、いじ悪く教えてくれませんでした。(54歳女性・その他) 職場の 人間関係 で、資格のあるなしで資格を有する人からの思いやりの少なさ。(59歳女性・事務) 新しい職場で、何人かの人と相性が悪く 人間関係 がうまく、出来なかった。(55歳女性・専門)
倒産-会社	つとめていた 会社 が 倒産 (失業 給料、退職金も出ず) 年令的にも再就職がむずかしくかなり探した。(55歳男性・管理) 会社 が 倒産 へつき進み退職金の積みみくずし、月給の遅配。(58歳男性・専門) 会社 の 倒産 や家族の病気、自宅の立退き訴訟等。(56歳男性・生産工程) 再々就職して役員をやった 会社 の 倒産 。(58歳男性・専門) 会社 が 倒産 し、給料もらえなかった時。(55歳男性・生産工程)
内容-仕事	学校出てすぐ就職した会社を何も調べず、 仕事内容 もわからず入った為、仕事内容が自分に合わなく、人間関係もむずかしかった事。(59歳女性・事務) 再就職したばかりの時、 仕事内容 が自分の中で誇りがもてなかった。(57歳女性・専門) 仕事内容 の変更、新たに覚える事が多すぎてストレスが多かった。(58歳男性・事務) 仕事の内容 が自分に適しているか疑問を持ち始めた。(53歳男性・専門) 新しい職場で 仕事の内容 を把握できなかった。(52歳男性・管理)
職場-関係	職場 の 人間関係 で、資格のあるなしで資格を有する人からの思いやりの少なさ。(59歳女性・事務) 新しい 職場 で、何人かの人と相性が悪く 人間関係 がうまく、出来なかった。(55歳女性・専門) 会社合併により、 人間関係 の悪い 職場 で無理な仕事をさせられた。(53歳男性・管理) 同じ 職場 の人と、 人間関係 がうまくいかなくなった。(50歳女性・生産工程) 人間関係(職場) で色々あり心身の病気になった。(55歳女性・事務)
入院-病気	(頸椎ヘルニア) 病気 になった。(3カ月 入院)。(58歳男性・管理) 病気 し長期 入院 したこと見内本人。(58歳男性・事務) 売上げがおちこみ自分も 病気 で 入院 。(56歳女性・事務) 病気 で 入院 した。(53歳男性・管理) 病気 で 入院 。(51歳男性・専門)

図表6-8は、これら同じ回答者の自由記述内で用いられやすかった語句間の関連を、等質性分析を用いて図示した結果である。

図から、おおむね、以下の3つのグループがあることがうかがえる。

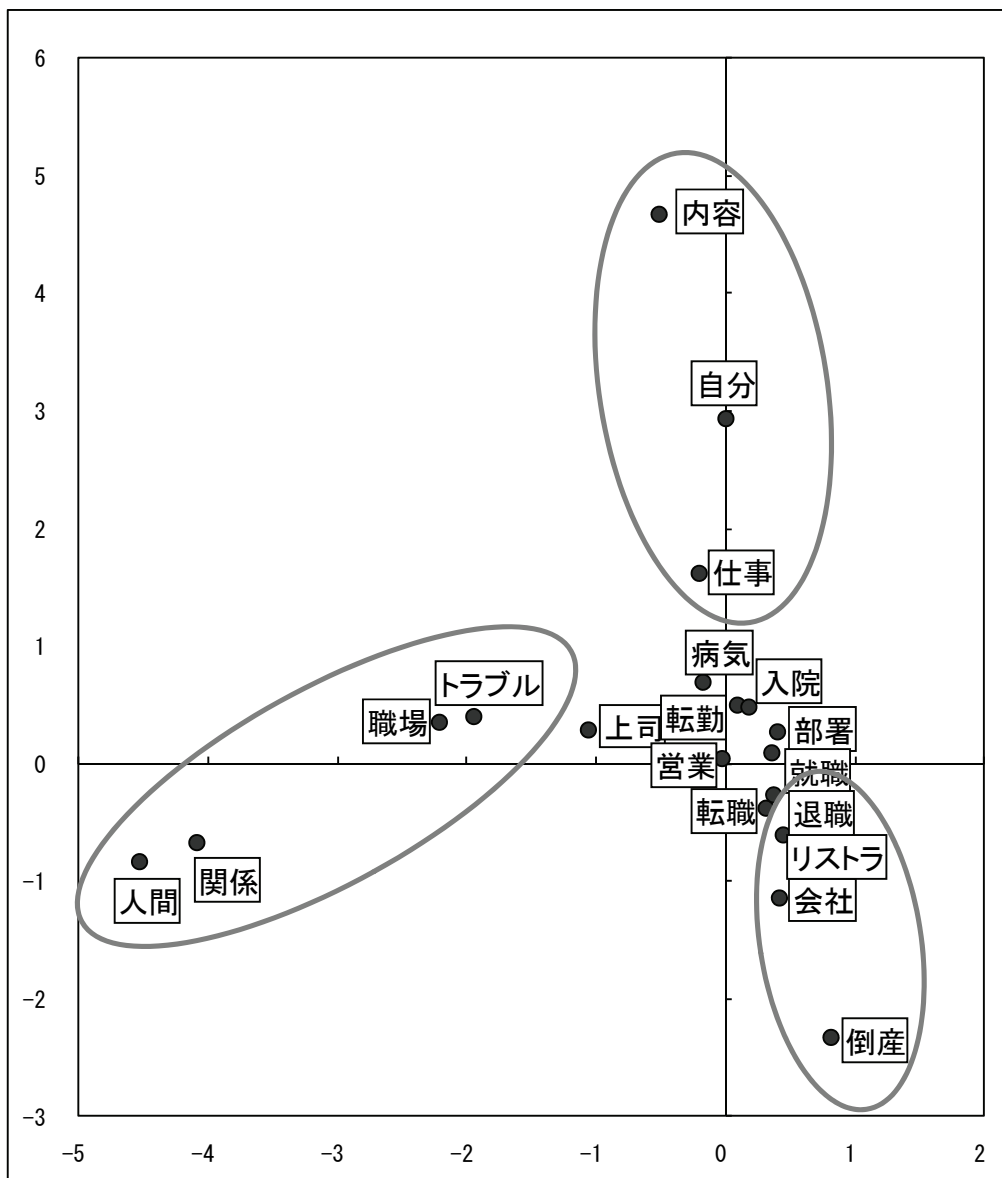
- ①「人間」「関係」「職場」「トラブル」などのグループ、
- ②「内容」「自分」「仕事」などのグループ、
- ③「倒産」「会社」「リストラ」「退職」などのグループである。

これらの結果から、過去の職業生活上の危機であった出来事は、おおまかに「職場の人間関係」「自分の仕事内容」「会社の倒産やリストラによる退職」といった形で整理することができる。

なお、図の中央部分に密集している語句は、特徴的な3つのグループには該当しない語句であり、明確な特徴がない語句でもある。ただし、細かく観察すれば、「病気」「入院」「転勤」は「自分の仕事内容」に近く、病気入院や転職などを機に自分の仕事内容が問題となる場合があることがうかがえる。また、「部署」「就職」「転職」という要因は、「会社の倒産やリス

トラによる退職」のグループに近く、部署の配置転換、リストラに伴う転職・就職を暗示させる結果となっている。同様に、「職場の人間関係」のグループに近いのは「上司」であり、当然ながら職場の人間関係の重要な人物として挙げられていると見ることができる。

図表6-8 職業生活上の危機だった出来事に関する自由記述で出現頻度の高かった語句(上位 19 語句)による等質性分析



4. 職業生活上の危機をどのように乗り越えたか

図表6-9には、「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」を「どのように乗り越えましたか」に関する自由記述で用いられる頻度の高かった語句を示した。

表から、最も用いられやすい語句は「転職」であり、以下「仕事」「就職」「自分」「会社」と続いていた。

概して言えば、過去の職業生活上の危機をいかに乗り越えたかを記述するにあたって、回答者は「転職」や「就職」など「会社」での「自分」の「仕事」に何らかの変化をもたらす方向で乗り越えたことがうかがえる。ただし、もう少し出現頻度が低い語句に目を向けると、「家族」「上司」「友人」「協力」などの語句もみられており、周囲の人々の協力によって乗り越えたという記述も相当数みられていたことが推測される結果となっていた。

図表6-9 職業生活上の危機を「どのように乗り越えましたか」の自由記述で

出現頻度の高かった語句

転職	164	紹介	17	アルバイト	12
仕事	115	子供	16	活動	12
就職	84	部署	16	学校	11
自分	81	自身	15	社員	11
会社	78	アドバイス	15	病院	11
家族	77	希望	15	保険	11
退職	60	転勤	15	治療	11
上司	57	仲間	14	入院	11
努力	49	異動	14	返済	11
友人	41	支援	14	パート	10
協力	40	業務	13	リハビリ	10
職場	37	職業	13	給料	10
相談	35	正社員	13	収入	10
勉強	23	同僚	13	助け	10
がまん	22	解決	13	相手	10
資格	21	取得	13	失業	10
生活	21	変更	13	転換	10
支え	19	周囲	12	配属	10
先輩	18	知人	12	配置	10

図表6-10には、職業生活上の危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で使用された語句をいくつかの主だった要因別に検討した結果である。表から、以下の3点が示される。

第一に、「職業上の危機をいかに乗り越えたか」を記述する上で用いられやすい語句のうち、様々な要因で違いがみられるのは「転職」「退職」「就職」「努力」「相談」などの特定の項目であった。これらの語句にまつわる記述をするか否かはいくつかの要因で異なるが、逆に言えば、これら以外の語句はそれほど回答者の要因によっては異ならないと言える。

第二に、具体的に違いがみられた箇所をまとめると、①「転職」は「男性」、「30代」、収入「～600万」、初職の勤務先規模「50人未満」、現在の勤務先規模「300人未満」、②「退職」は「女性」、収入「～400万」、③「就職」は「～400万」、初職の勤務先規模「50人未満」、

④「努力」は収入「800万円以上」、初職および現在の勤務先規模「1000人以上」であった。

第三に、これらの結果を概してまとめると、①初めての勤務先が小企業であった男性が30代で危機を経験した場合に「転職」という形で危機を乗り越え、現在、中企業に勤務している様子がうかがえる。②女性、年収が低い回答者、初職および現職の勤務先が小企業である回答者では、勤め先を「退職」し、別の勤め先に「就職」することで危機を乗り越えた様子がうかがえる。③年収が高い回答者、初職および現職の勤務先が大企業である回答者は、自分の「努力」によって危機を乗り越えている様子がうかがえるが、同時に「上司」や「相談」によって危機を乗り越えた様子もうかがえる。

図表6-10 職業生活上の危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で
出現頻度の高かった語句の要因別の違い

性別	男性 N=1532	女性 N=518				
「転職」	9.3%	4.1%				
「退職」	1.9%	5.8%				

危機を 経験した年代	10代 N=30	20代 N=291	30代 N=339	40代 N=583	50代 N=247
「転職」	6.7%	13.4%	15.0%	10.3%	4.5%

昨年の年収	~400万円 N=569	~600万円 N=495	~800万円 N=417	800万円 以上 N=539
「転職」	7.2%	11.5%	8.2%	5.4%
「就職」	6.3%	5.3%	1.9%	2.0%
「家族」	2.1%	3.4%	6.5%	3.2%
「退職」	5.4%	3.6%	1.7%	0.6%
「努力」	1.6%	1.4%	2.9%	3.7%
「相談」	0.9%	0.4%	2.9%	2.0%

初職の規模	50人未満 N=489	300人未満 N=511	1000人 未満 N=363	1000人 以上 N=674
「転職」	12.5%	8.4%	5.5%	5.5%
「就職」	6.5%	3.1%	4.1%	2.7%
「努力」	1.0%	2.3%	1.9%	3.7%

現在の規模	50人未満 N=636	300人未満 N=521	1000人 未満 N=335	1000人 以上 N=548
「転職」	9.1%	10.9%	7.2%	4.2%
「就職」	6.0%	4.6%	2.7%	1.8%
「退職」	3.9%	3.1%	3.6%	1.1%
「上司」	1.1%	2.7%	3.6%	4.2%
「努力」	1.4%	1.7%	1.8%	4.6%
「相談」	0.8%	1.0%	1.8%	2.7%

※残差分析の結果、5%水準で有意に値が大きい箇所には網かけ、小さい箇所には下線を付した。

以上の分析で鍵となった語句とも呼べる「転職」「就職」「退職」「努力」の4つの語句が含

まれている自由記述のうち、文字数が多かった回答を図表6-11に列挙した。表の記述内容に着目すると、「努力」という語句が用いられている自由記述は、他の「転職」「就職」「退職」の語句が用いられている自由記述と若干、内容が異なる。「努力」という語句は社内もしくは組織内で何らかの形で危機を乗り越えたという記述内容と解釈される。一方で、「転職」「就職」「退職」の記述内容では、会社や組織が変わることそのものに焦点を当てた記述が多くみられる。この点が上述した要因別の違いに影響を与えていると考察される。なお、「転職」と「就職」「退職」には大きな違いは見られないが、あえて言えば、「転職」が仕事を変えることを問題にしているのに対して、「就職」「退職」はそもそも仕事をするか否か（できるか否か）が問題になっているという違いを見出すことはできそうである。ただし、その違いはわずかであると解釈される。

図表6-11 職業生活上の危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で
出現頻度の高かった語句の自由記述内容

自分を信じ、外に相談できる相手を作り、相談に乗ってもらった。区切りをつけて、 転職 した(58歳男性・管理)。
その後2年間、 転職 3回、過去の職位・プライドを捨て、新人の気持ちで年下の人間に従った(55歳男性・事務)。
時給の高い派遣会社に 転職 し、配偶者控除適用をやめた。その事が正社員へとつながった(54歳女性・事務)。
退職はしたが、在職中に知り合った同じ職業の知り合いの紹介で他への 転職 をした(59歳女性・専門)。
自分の中で仕事に対して達成感(やるだけやった)という思いもあり 転職 する事で…(51歳女性・専門)
紹介で 就職 はしなかったため職安、求人誌などで探したがすべて年令で切れ面接まで行かなかった。たまたまTelした会社がやとってくれた(55歳男性・管理)。
就職活動を1年ちよつとし、やっと正社員、採用してもらえた現会社に 就職 (54歳男性・専門)。
自分なりに努力もしたが、まわりのサポートのおかげで何とか再 就職 できた(52歳男性・生産工程)。
とりあえずパートで勤め資格を取り、正社員として 就職 することをめざす(50歳女性事務)。
解雇を選択し、失業保険受給中に資格取得し、再 就職 した(51歳女性・専門)。
退職 事前に次の仕事を決めていたが思うように実作業が進まず、結局、実質的に無職となり、各方面へ、面接や書類で応募等に終始していた(52歳男性・管理)。
自分からは 退職 願をださないように、心に決めたが友達や家族には話さず、一人で悩んでいた(58歳男性・販売)。
社内の人事異動で、他部署に異動となった(前任者が定年 退職 した)(54歳女性・生産工程)。
不当解雇として裁判をする。失業保険と 退職 金で生活する(51歳男性・管理)。
面接や作文で 退職 できない理由をアピールしました(56歳男性・生産工程)。
残った社員同志がまとまって、なんとか他社に仕事をとられないよう 努力 した(54歳男性・販売)。
自分なりに 努力 もしたが、まわりのサポートのおかげで何とか再就職できた(52歳男性・生産工程)。
仕事をきちんとする事により、信頼されるように 努力 した(59歳女性・事務)。
覚える様 努力 したが、2年間で又異動になった(54歳男性・事務)。
優秀なスタッフの献身的 努力 により乗り越えた(53歳男性・管理)。

図表6-12には、職業生活上の危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で用いられ

る頻度の高かった語句どうしの関連性を検討したものである。表には、関連性の強さを示すφ係数を示した。最も関連が強かったのは、「上司」と「相談」であり（φ=.273）、自由記述内に「上司」という語句が用いられた場合には、同時に「相談」という語句も多く用いられていたことを示す。以下、「家族」と「協力」（φ=.220）、「家族」と「友人」（φ=.180）、「就職」と「会社」（φ=.158）が比較的φ係数の大きかった組み合わせであった。上司に何かを相談する、家族や友人の協力、会社に就職するという自由記述が多かったと言えよう。

図表6-12 職業生活上の危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で出現頻度の高かった語句の要因別の違い

	「転職」	「仕事」	「就職」	「自分」	「会社」	「家族」	「退職」	「上司」	「努力」	「友人」	「協力」	「職場」	「相談」
「転職」													
「仕事」	-0.038												
「就職」	-0.060	-0.049											
「自分」	-0.041	.052	-0.015										
「会社」	.027	.043	.158	-0.013									
「家族」	-0.038	-0.035	-0.026	.014	-0.025								
「退職」	-0.040	-0.015	.010	.010	.012	-0.018							
「上司」	-0.049	.013	-0.034	-0.003	-0.002	-0.001	-0.011						
「努力」	-0.046	.005	-0.015	.067	-0.031	-0.013	-0.027	.013					
「友人」	-0.028	.013	.044	.008	.009	.160	-0.024	-0.024	.001				
「協力」	-0.041	-0.018	-0.010	-0.010	.029	.220	-0.024	-0.001	.002	.032			
「職場」	-0.040	.049	.010	.048	-0.027	.052	-0.023	.022	.003	.007	.008		
「相談」	-0.007	.006	-0.025	.058	-0.003	-0.003	-0.021	.273	.007	.069	-0.017	.013	

※数値は2値間の相関係数と解釈できるφ係数。

絶対値.59未満は1%水準で有意。 .10以上の値に網かけ囲みを付した。

図表6-13には、「家族」「友人」「協力」の語句が用いられている自由記述の例を示した。家族や友人などの協力が、職業生活上の危機を乗り越える上で重要な役割を果たしていることがうかがえる。特に、これらの自由記述では、過去の職業生活上の危機として「病気休職」「家族の病気」「精神病」「子育て」「うつ病」「足をおる」「交通事故」「親の介護」「入院」「大震災」など、病気・怪我や子育て・介護といった個人生活面での問題が職業生活上の危機に重なっている場合が多い。個人生活と職業生活の接点においては、家族や友人といった身近な人によるいわゆるソーシャルサポートが重要になることを指摘できる。

上述の結果からも、職業生活上の危機の内容とそれをいかに乗り越えたかには密接な関連があると思われたので、職業生活上の危機で頻出した語句といかに乗り越えたかで頻出した語句との関連性を検討した。図表6-14はφ係数を求めた結果である。表からもっとも関連が高いのは、危機「倒産」と乗り越え「就職」の組み合わせであった（φ=.220）。以下、危機「上司」と乗り越え「上司」（φ=.203）、危機「会社」と乗り越え「会社」（φ=.170）、危機「職場」と乗り越え「職場」（φ=.169）、危機「病気」と乗り越え「家族」（φ=.136）と続いていた。基本的には、上司・会社・職場が関連する危機は、それぞれ上司・会社・職場との関わりで乗り越えられるということが言える。

図表6-13 職業生活上の危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で「家族」「友人」「協力」の語句が用いられていた自由記述例

過去の職業生活上の危機	それをどう乗り越えたか
病気休職(うつ病)	入院、カウンセリング、NPO復帰支援プログラム参加、 家族の協力 。親が逆介護してくれたこと。(50歳女性・専門)
仕事上のトラブルと家族の病気	友人、家族 、子どもたち、そして良い医師からの 協力 と助言そして自分の覚悟。(56歳男性・事務)
初めて管理者となったが、事件ばかり起き、その処理が、非常に大変であった	他の管理者の 協力 、 家族 の支え、 友人 のアドバイス(52歳男性・管理)
精神病に近い症状になった	職場の 友人 、 家族 の暖かさ(57歳男性・専門)
失業(自ら辞職)	友人 の紹介で転職。 家族・友人 の支え(53歳男性・管理)
共働きで出産、子育てで大変だった	周りの人や 家族の協力 でのりこえてきた(51歳女性・事務)
会社都合による解雇	友人 の支えと 家族 の支援(55歳男性・管理)
転職した	家族 、 友人 、知人に助けられた(50歳男性・専門)
うつ病	家族 、 友人 の支え(53歳男性・専門)
(前略)いねむり運転をし11t車にぶつかり、足をおる	家族 と 友人 のささえで(56歳男性・事務)
部署が変わった為	友達、 家族 の応援にて(50歳男性・保安)
交通事故	家族の協力 (56歳男性・生産工程)
出向、単身赴任	家族の協力 (54歳男性・管理)
親の介護	家族の協力 (56歳男性・専門)
体調をくずし入院	家族の協力 (50歳男性・管理)
学級が荒れた	家族・友人 に支えられ、がんばった。卒業させた(59歳女性・専門)
単身赴任	家族の協力 (59歳男性・管理)
職場の人間関係	家族 や 友人 に話した(56歳女性・事務)
阪神淡路大震災	家族の協力 (50歳女性・販売)

図表6-14 職業生活上の危機と、危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で出現頻度の高かった語句間の関連性

危機	どのように危機を乗り越えましたか												
	「転職」	「仕事」	「就職」	「自分」	「会社」	「家族」	「退職」	「上司」	「努力」	「友人」	「協力」	「職場」	「相談」
「仕事」	-0.06	.114	-0.15	.047	.004	.030	.007	.056	.019	.001	.046	.027	.039
「会社」	.128	.050	.132	.079	.170	.007	.052	-0.17	-0.09	.045	.036	-0.06	-0.22
「関係」	-0.08	-0.04	-0.23	.001	.051	.040	.124	.018	-0.06	.083	-0.15	.020	.046
「倒産」	.109	.004	.220	-0.30	.099	-0.15	-0.07	-0.35	-0.33	.023	.042	-0.10	-0.06
「転職」	.073	-0.07	.070	-0.17	.048	.050	.008	.025	-0.01	.041	-0.29	.026	-0.06
「人間」	-0.03	.019	-0.15	.012	.040	.029	.087	-0.02	.002	.100	-0.28	-0.08	.058
「上司」	.018	.032	-0.40	.013	-0.26	.044	.012	.203	-0.14	.046	.010	-0.08	.123
「病気」	-0.24	-0.24	-0.32	.000	.018	.136	.029	-0.27	-0.25	.000	.092	-0.22	-0.20
「退職」	.056	.022	.113	.025	.057	-0.03	.091	-0.29	-0.27	.017	-0.24	-0.24	-0.22
「自分」	-0.13	.085	-0.17	.064	.050	.035	.028	-0.08	.036	.000	.023	.025	.031
「リストラ」	.046	.003	.128	.033	.001	-0.14	.010	.012	.016	-0.23	.024	-0.22	.006
「職場」	-0.23	.004	-0.32	.033	.002	.037	.048	.012	-0.04	.023	-0.22	.169	.084
「就職」	-0.02	.013	.134	.044	.046	.010	-0.24	.020	-0.22	.006	.006	.007	-0.17
「転勤」	-0.26	.016	-0.27	-0.08	-0.27	-0.07	.042	.022	.051	.007	.008	.037	-0.17
「トラブル」	-0.24	-0.14	-0.07	.033	-0.06	.015	.069	.002	-0.20	.037	.066	.040	.046
「内容」	.007	.057	-0.26	.015	.037	-0.25	-0.22	.003	.006	-0.18	-0.18	.012	.049
「入院」	-0.37	.022	-0.26	.015	-0.04	.059	-0.22	-0.21	.032	-0.18	.011	-0.17	-0.16
「部署」	-0.06	.043	-0.25	-0.04	-0.24	.020	.003	.029	.061	-0.17	-0.17	.014	-0.15
「営業」	.053	.015	-0.09	.010	-0.27	.012	.020	.021	.002	.007	-0.19	.009	.013

※.10以上の相関係数に網かけを付した。また、相関係数が大きい上位5位を罫線で囲んだ。

図表6-15には、図表6-14で関連が高かった語句が含まれる自由記述の例を示した。上司・会社・職場が関連する危機は、それぞれ上司・会社・職場との関わりで乗り越えられるということの内実と詳細がうかがえる結果となっている。

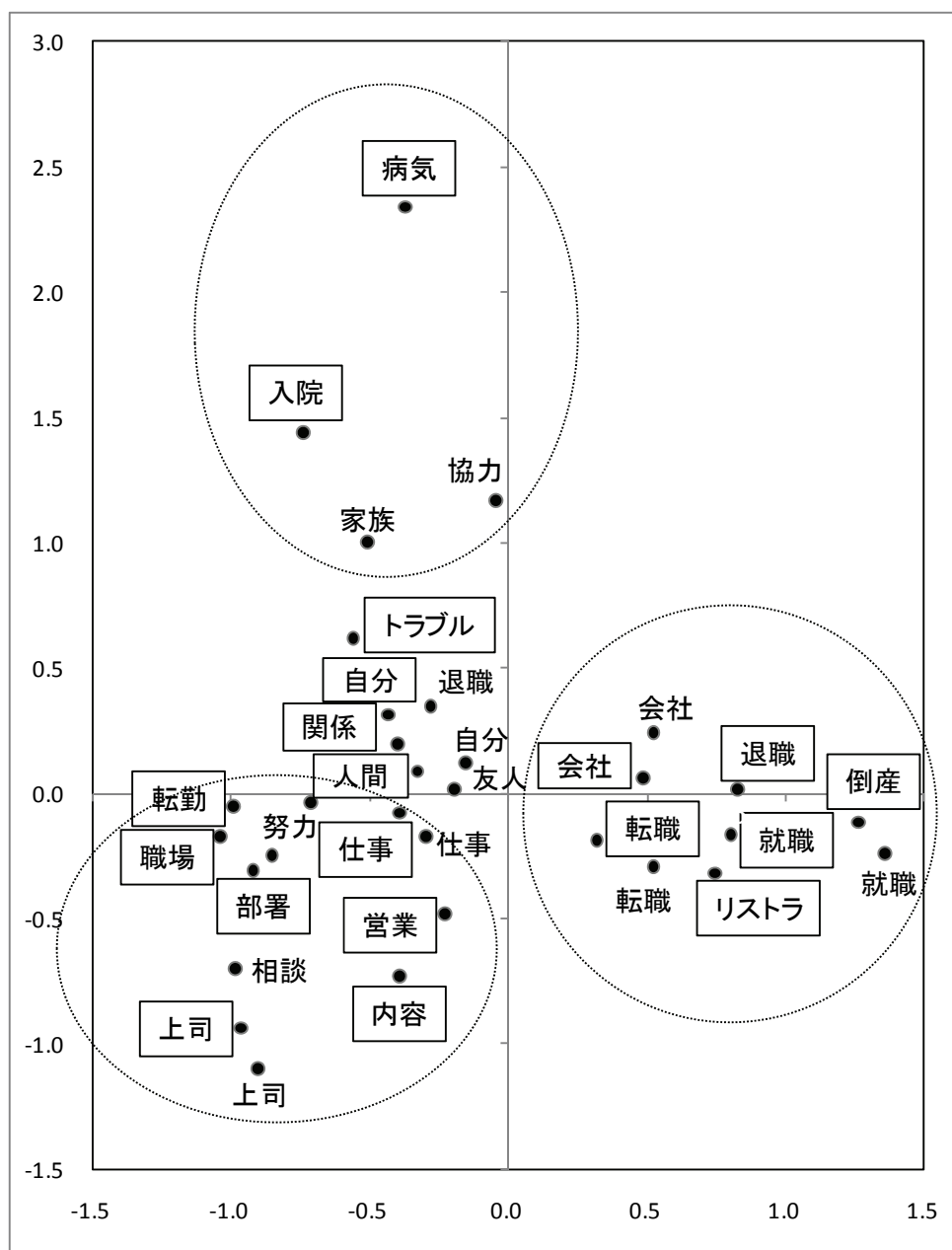
図表6-15 職業生活上の危機と、危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で
関連性の高かった語句が含まれる自由記述例

	過去の職業生活上の危機	それをどう乗り越えたか
危機「倒産」 乗り越え「就職」	会社の倒産	年令的に再就職が難しかったが職安に何度も行った(55歳男性・生産工程)
	会社の倒産	再就職するが2年たらずで又倒産(52歳女性・事務)
	家業の会社の倒産	うつ病になり、治療後、再就職(56歳男性・管理)
	会社の倒産	職安に通い、現在の職場に就職(58歳女性・生産工程)
危機「上司」 乗り越え「上司」	会社の倒産	キャリアを生かして再就職(57歳男性・管理)
	苦情電話があり、上司と相談していたが、(対応がまずく)、客がおこって、タクシーでとんできた	上司2人と、私とで3人で平謝り、あまり叱られなかったけど、とてもつらかった(56歳女性・事務)
	異常な上司からのストレスで(病気になり)、交通事故を起した	医者を転々としても原因がわからず、自然におさまり、上司とはなれたとたん治る(54歳男性・管理)
	上司の考えについていけない	結局、同僚とはげまし合いながら、上司は異動した(53歳男性・運輸)
危機「会社」 乗り越え「会社」	上司(役員)と合わず、苦勞した	上司自体が、変な人柄で、仲間と助け合った(50歳男性・管理)
	転職により営業成績が落ち、上司からリストラの責めをうけた	運よく部署が変わった上司が良い人だった(58歳男性・販売)
	会社が、水害、地震にあう	取り引き先の応援があり、給料カット、ボーナスなしで会社を続けられた(51歳男性・生産工程)
	会社の譲渡の話があったが、自分自身、社長としてやる決断が出来ず、よって会社は廃業となって、失職した事 ようやく入社した会社に6ヶ月で解雇された。(支社縮小のため)	就職活動を1年ちよつとし、やっと正社員、採用してもらえた現会社に就職(54歳男性・専門)
会社倒産の心配	次の仕事を前向きに、もっといい会社に入るぞと思ひのりこえた(50歳女性・管理)	
会社を退職した	会社が在続のためにがんばるしかない。乗り越えられれば良いけど…(52歳女性・専門)	
危機「職場」 乗り越え「職場」	(3回目の転職の時、職場のふんいきに当時慣れず、おちこんでいた。)	前向きに、次の会社を探し1年かかり、再就職する(57歳男性・販売)
	人事異動で、経験のない職場へ移り、仕事内容を聞ける人がその場になかった。(技術職で右も左も分からず)一番上になってしまった	職場仲間と仲よくなって、しんどさを共有することで慣れた(53歳女性・専門)
	自分の職場、仕事が終息した	恥をかきながら、職場の違う先輩に聞いたり、相談したり(55歳女性・専門)
	職場、仕事になじめなくなった	他の仕事・職場に変更となり、役職からOPIになった(53歳男性・生産工程)
同じ職場の人と、人間関係がうまくいかなかった	職場、仕事を換えてもらった(56歳男性・生産工程)	
危機「病気」 乗り越え「家族」	仕事上のトラブルと家族の病気	職場を変える機会があった(50歳女性・生産工程)
	病気になるってしまった	友人、家族、子どもたち、そして良い医師からの協力と助言そして自分の覚悟(56歳男性・事務)
	信頼され、仕事の楽しさを知ったが、上司(社長)が交替になり1年間やってみたが、病気になるてしまい、会社から退職の話を出された。それも完治して、入社した時です	家族と共に乗り越えた。会社仲間も協力してくれた(54歳男性・管理)
	病気	家族に「又、病気になってしまうよ」となだめられる(59歳女性・事務)
病気	夫の支え・家族両親の力ぞえ(51歳女性・事務)	
病気	家族に助けられて(56歳男性・生産工程)	

図表6-16には、職業生活上の危機とそれをいかに乗り越えたかに関する自由記述で出現頻度の高かった語句の対応関係について、多変量解析(コレスポンデンス分析)の手法を

用いてまとめた結果である。図で、近い位置にあるものは密接な対応関係にあり、遠い位置にあるものは対応関係がないものとして解釈することができる。ここまで明らかにしてきたとおり、図から、①「会社」「転職」「退職」「就職」「倒産」「リストラ」などの職業生活上の危機と「会社」「転職」「就職」などによって乗り越えたという記述、②「病気」「入院」などの職業生活上の危機と「家族」「協力」などによって乗り越えたという記述、③「上司」「内容」「部署」「営業」「職場」「仕事」「転勤」などの職業生活上の危機と「上司」「相談」「努力」「仕事」などによって乗り越えたという記述が対応していることが分かる。

図表6-16 職業生活上の危機と、危機をいかに乗り越えたかに関する自由記述で出現頻度の高かった語句の対応関係(コレスポネンス分析)



ここまでの結果もあわせて解釈すれば、①倒産やリストラなどの事情によって、会社そのものを退職・転職しなければならない場合、会社を転職したり、再就職したりすることによって乗り越えられるということ、そして、こうした危機は、年収の低い層、初職・現職の勤務先の従業員数が少ない層で生じやすいと言える。②転勤を伴う部署の異動などによる仕事内容の変化、営業成績の低下、職場の上司との人間関係などの危機は、上司と相談したり、努力することによって乗り越えられる。これらの危機は、年収の高い層、現職の勤務先の従業員数が多い層で生じやすい。③こうした職場の危機とは別に、病気で入院するという個人生活上の危機も重大であり、家族の協力によって乗り越えられていることがうかがえる。

なお、図表6-16では、図の中心部分に「トラブル」「自分」「関係」「人間」という危機と、「退職」「自分」「友人」によって乗り越えたという記述が近い位置にある。様々な解釈ができると思われるが、上述の3つの危機の中核に、自分の周囲の人間関係とのトラブルが含まれており、その解決の主体として自分と友人が、その主だった解決の1つとして退職があるといった見方ができる。

翻って図表6-9では「自分」という語句が、過去の職業生活上の危機を「どのように乗り越えましたか」の自由記述で出現頻度の高かった語句として挙がっていたが、あらゆる危機の中核に自分と周囲との関わりの問題が伏在しているために上位に挙げたものと解釈されよう。

5. 職業生活上の危機に対する支援ニーズ

図表6-17には、「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」について「どのような助けや支援（制度などを含む）があれば良かったと思いますか」に関する自由記述で出現頻度の高かった語句を示した。最も出現頻度の高かった語句は「制度」であり、以下「支援」「会社」「上司」「相談」「自分」と続いていた。

これら出現頻度の高かった語句について、前節までの分析と同様、主だった要因別に検討を行ったが、女性が男性よりも「支援」という語句を用いる傾向が強いという結果がみられたのみであった（女性7.1%、男性4.2%）。

図表6-18には、これら「どのような助けや支援（制度などを含む）があれば良かったと思いますか」に関する自由記述で出現頻度の高かった語句間の関連を検討した結果を示した。表から、最も高い組み合わせは「上司」と「相談」（ $\phi=.124$ ）であり、以下、「制度」と「会社」（ $\phi=.112$ ）、「支援」と「自分」（ $\phi=.106$ ）と続いていた。

以上の結果をあわせて考察すると、概して言えば、上司に対する相談、会社内の諸制度、自分に対する支援が求められていると言える。

図表6-17 職業生活上の危機で「どのような助けや支援(制度などを含む)があれば良かったと思いますか」に関する自由記述で出現頻度の高かった語句

制度	106	機関	16	企業	11
支援	106	職業	16	条件	11
会社	65	転職	16	組合	11
上司	62	サポート	15	年令	11
相談	60	援助	15	希望	11
自分	52	家族	14	教育	11
仕事	50	休暇	14	雇用	11
保険	30	取得	14	保障	11
助け	28	給料	13	労働	11
情報	23	社内	13	精神	10
就職	23	友人	13	同僚	10
資格	22	関係	13	育児	10
職場	22	指導	13	管理	10
理解	22	紹介	13	退職	10
アドバイス	20	個人	12	保育	10
失業	18	社員	12		
充実	18	内容	12		

図表6-18 職業生活上の危機であれば良かったと思う支援に関する自由記述で出現頻度の高かった語句間の関連

	「制度」	「支援」	「会社」	「上司」	「相談」	「自分」	「仕事」	「保険」
「制度」								
「支援」	.082							
「会社」	.112	.061						
「上司」	-.027	.013	.001					
「相談」	.014	-.013	.019	.124				
「自分」	.049	.106	.024	.063	.009			
「仕事」	.025	.040	-.009	-.008	-.007	.017		
「保険」	.047	.028	.048	-.021	.003	-.020	-.019	

※数値は2値間の相関係数と解釈できるφ係数。

絶対値.59以上は1%水準で有意。 .10以上の値に網かけ囲みを付した。

図表6-19には、上述の「上司に対する相談」「会社内の諸制度」「自分に対する支援」の具体的な自由記述内容を示した。詳しくみると、上司に対して容易に相談できるような仕組み作り、会社内で整備することが可能が諸制度が挙げられている。ただし、自分に対する支援は、むしろ支援は必要なく自分の力で何とかするという内容が多く書かれている。こうした自力で、自らの職業生活上の危機を乗り越えていきたいというニーズは常に一定数あるものと考えられる。今後、成人層のキャリア支援を考える際には留意しておきたい点である。

**図表6-19 職業生活上の危機であれば良かったと思う
支援に関する自由記述で相互に関連性の高かった語句の自由記述例**

「上司」-「相談」	上司と、ゆっくり話をしたかった。苦情に対する相談相手ほしい(56歳女性・事務) 上司に相談相手や指導する立場の人間がいたらと思う(53歳男性・運輸) 相談するほかの上司がいればよかった(52歳男性・運輸) 上司に相談出来ればと思った(52歳男性・生産工程) 相談できる上司(54歳女性・事務)
「制度」-「会社」	会社内での配置転換やカウンセリング制度(51歳女性・事務) 産休制度がある会社を選ぶべきでした(50歳女性・販売) 会社内の研習制度(現在は充実)(54歳男性・管理) 会社でのサポート制度(54歳男性・管理) 会社の休暇制度(56歳男性・専門)
「支援」-「自分」	自分の能力の問題なので支援は別にいらなかった。自分で何かと打破するしかない(54歳女性・事務) 自分の持っている知識(技工士)を生かせる仕事を紹介、支援する制度(56歳男性・生産工程) 自分に適した希望する内容に相談にのってくれる支援センター(57歳男性・事務) 支援があったとしても、自分から申し出ることはなかったと思う(54歳女性・サービス) 自分自身のことであり助けや支援は不要(58歳男性・管理)

図表6-20には、過去の自分の職業生活上の危機と、その際にあれば良かったと思う助けや支援（制度など）に関する自由記述で頻出した語句間の関連を示した。数値は、ここまでの分析と同様、 ϕ 係数であった。表からもっとも関連が高いのは、危機「倒産」と支援「保険」の組み合わせであった（ $\phi=.157$ ）。以下、危機「上司」と支援「相談」（ $\phi=.135$ ）、危機「人間」と支援「上司」（ $\phi=.114$ ）、危機「仕事」と支援「仕事」（ $\phi=.111$ ）、危機「リストラ」と支援「保険」（ $\phi=.111$ ）と続いていた。基本的には、①倒産やリストラといった危機が生じた際の何らかの保険、②上司を含む人間関係をめぐる危機が生じた際に、やはり上司を含む何らかの相談、そして、③仕事の危機は仕事上の支援が求められているといった解釈ができる。

図表6-21には、図表6-20で関連が高かった語句、危機「倒産」と支援「保険」、危機「上司」と支援「相談」、危機「人間」と支援「上司」が含まれる自由記述の例を示した。上司・会社・職場が関連する危機は、それぞれ上司・会社・職場との関わりで乗り越えられるということの内実と詳細がうかがえる結果となっている。その結果、①倒産した際の「失業保険」（雇用保険のいわゆる失業給付）に関する記述、②上司のパワハラとその相談窓口の整備に関する記述、③会社内の人間関係についての上司による支援に関する記述が多くみられた。

上記の分析結果の中で特に注目すべきは「上司」の役割であろうと思われる。本節の自由記述の分析結果からは「上司」は危機にもなりうる一方、支援にもなりうるという結果が示された。これは、成人キャリア発達において、上司の部下に対する接し方、部下の上司に対する支援の求め方が、極めて重要な要因となりうる可能性を示すものと言える。従来、成人キャリア支援は就労者個人の支援に限定されていたが、今後の成人キャリア支援の1つの視点として、組織内における上司-部下関係に対する適切な支援介入ということを模索する方向がありうることは特記しておきたい。

図表6-20 職業生活上の危機と、あれば良かったと思う
支援に関する自由記述における頻出語句間の関連

		どのような助けや支援があれば良かったと思いますか							
		「制度」	「支援」	「会社」	「上司」	「相談」	「自分」	「仕事」	「保険」
危機	「仕事」	.065	.037	.042	.074	.033	.100	.111	-.021
	「会社」	.011	.059	.086	.005	-.010	-.003	.033	.104
	「関係」	.032	.000	.037	.107	.069	-.008	-.004	-.028
	「倒産」	.053	.042	.018	-.022	-.021	-.018	.000	.157
	「転職」	-.026	.019	.004	-.008	.080	-.003	.033	.035
	「人間」	.024	.001	.051	.114	.072	.000	.003	-.024
	「上司」	.026	-.022	.067	.101	.135	.033	.038	-.024
	「病気」	.079	.064	.025	-.010	-.027	.014	.059	.007
	「退職」	.014	.040	.002	-.013	-.013	.027	.051	.051
	「自分」	.020	.020	.024	.063	.009	.092	.017	-.020
	「リストラ」	.035	-.008	.060	.009	.010	-.006	.017	.111
	「職場」	.037	.007	-.029	.047	.105	.015	.018	.007
	「就職」	.033	.081	.015	-.025	-.024	.045	.026	.042
	「転勤」	-.014	-.014	-.024	-.002	.021	-.022	.004	-.017
	「トラブル」	.005	.058	.042	.067	.092	.003	.006	-.016
	「内容」	.007	.007	.000	.047	.002	.105	-.019	-.015
	「入院」	.044	-.029	.000	.024	.002	.005	-.019	.050
	「部署」	.009	.009	.024	-.021	.003	.032	.008	-.015
	「営業」	.018	-.031	.058	.061	-.024	-.022	.003	.013

※.10以上の相関係数に網かけを付した。
また、相関係数が大きい上位5位を罫線で囲んだ。

図表6-21 職業生活上の危機と、あれば良かったと思う
支援に関する自由記述で関連性の高かった頻出語句を含む自由記述例

	過去の職業生活上の危機	あれば良かったと思う助けや支援
危機(倒産)－ 支援(保険)	会社が倒産し、給料もらえなかった時	(給料、雇用保険もらえるように)ハローワークでの説明とかあれば良かったと思う。知識がなかったばかりに、ハローワークに相談にも行かなかった(55歳男性・生産工程)
	2度目の就職先が倒産した事	別に問題なく過ごせた。失業保険をすぐもらえた(55歳女性・販売)
	勤務先の倒産による再就職	失業保険だけでなく年金制度にも配慮(58歳男性・生産工程)
	会社の倒産	失業保険の金額をもう少しほしかった(50歳男性・サービス)
	会社の倒産	失業保険の充実(金額のアップ)(52歳男性・管理)
危機(上司)－ 支援(相談)	ヤクザみたいな上司に仕え、精神的ノイローゼに陥る	パワハラ等の相談窓口が当時あれば良かったと思う。人事にありのまま報告するも、結局自分だけが惨めな思いをさせられた(53歳男性・管理)
	誰からも嫌われている上司の職場に配属された	相談に乗ってくれる部署が必要。年に一度位アンケート等をとり職場環境の把握が欲しい(58歳男性・管理)
	上司との人間関係	パワハラに關した相談窓口があればよかった(50歳男性・管理)
	異常な上司からのストレスがえで神経性のぜん息が続き交通事故を起した	安心して相談出来る社内のかけ込み寺(54歳男性・管理)
	直属の上司からパワーハラスメントを受けた	組織としての相談体制の整備(50歳男性・管理)
危機(人間)－ 支援(上司)	会社でケガ入院3ヶ月休職後復帰するがその後人間関係でなやむ	周囲の人の言葉等にキズつけられたりしたが、上司が応援して下さった事も有り、力強くなった(59歳女性・生産工程)
	会社合併により、人間関係の悪い職場で無理な仕事をさせられた	上司への早期相談と、業務知識の習得努力(53歳男性・管理)
	人間関係でトラブル	話をきちんと聞いてくれる上司がいてほしかった(50歳女性・事務)
	人間関係が悪かった。	上司がもっと話を聞いて対処して欲しかった(58歳女性・その他)
	営業成績不振、人間関係等で体調不良になった	信頼できる上司や同僚の助言(54歳男性・生産工程)

6. これまでの職業生活に対する感じ方・考え方

(1) これまでの職業生活に対する感じ方・考え方の全般的傾向

本調査では、これまでの職業生活に対する感じ方・考え方についても、いくつかの設問で自由記述を求めている。ここでは、具体的に「これまでの職業生活で後悔することは」「これまでの職業生活で最も良かったと思うことは」「これまでの職業生活で最も役に立った能力は」の3つの設問に対する自由記述の分析を行うこととする。

図表6-22には、これまでの職業生活に対する感じ方・考え方に関する自由記述で出現頻度の高い語句を示した。最も出現頻度が高かった語句は、①「後悔することは」に関する自由記述では「資格」であり、以下「仕事」「勉強」「会社」「自分」と続いていた。②「最も良かったと思うことは」に関する自由記述では「仕事」であり、以下「自分」「会社」「関係」「人間」と続いていた。③「最も役に立った能力は」に関する自由記述では「能力」であり、以下「資格」「知識」「関係」「技術」と続いていた。

図表6-22 これまでの職業生活に対する感じ方・考え方に関する自由記述で出現頻度の高い語句

	後悔する ことは	最も良かったと 思うことは	最も役に立った 能力は
資格	118	仕事	258
仕事	108	自分	129
勉強	80	会社	117
会社	77	関係	84
自分	68	人間	77
転職	60	経験	63
就職	47	資格	57
職業	42	就職	49
後悔	42	職場	46
取得	41	友人	46
退職	31	転職	46
大学	29	海外	39
最初	28	上司	38
関係	27	仲間	38
人間	26	生活	35
不足	26	職業	32
結婚	23	技術	31
子供	21	部下	31
経験	21	営業	28
学生	20	収入	24
技術	20	成功	23
職場	20	勉強	23
専門	20	子供	21
		管理	21
		企業	20
		取得	20
		能力	160
		資格	147
		知識	88
		関係	78
		技術	76
		パソコン	67
		仕事	58
		免許	51
		コミュニケーション	50
		取得	45
		人間	42
		経験	42
		専門	39
		自分	34
		性格	33
		対人	32
		営業	28
		忍耐	27
		運転	25
		英語	21
		管理	21
		勉強	21
		経理	20

(2) 自由記述内に頻出する「資格」という語句について

図表6-22では、「後悔することは」で最も出現頻度が高かった語句に「資格」が挙げられているのは注目すべき結果である。具体的な記述内容を図表6-23に示した。いずれも若い頃に何らかの資格を取得しておくべきであったという内容であるのが分かる。また、3番目に出現頻度が高かった語句に「勉強」があるがこれも同じ意味であり、若い頃のもっと勉強しておくべきであったという内容となっている。

図表6-23 「後悔することは」に関する自由記述で
「資格」「勉強」という語句が用いられている自由記述例

若い頃に色々な 資格 、勉強をして、どんな事にも対応出来るようにすればよかったと思う(55歳男性・生産工程)
もっと若い時に 資格 をとっていればパートでしのぐのではなく正社員で働けたのではないか(57歳女性・専門)
若い時にもっと社会的に上を目指せるような 資格 や知識を得る為努力すればよかった(51歳女性・事務)
10代、20代＝給与はよかったが、自分の 資格 や性格を重視した職業をしたかった(56歳女性・事務)
2度チャレンジして、取得できなかった 資格 をそれであきらめてしまったこと(51歳女性・専門)
特にないが、強いていえば今後活かせる 資格 を取得していないということ(51歳男性・管理)
資格等何もないので何かの 資格 を取っておけばよかったかなと後悔してます(51歳女性・生産工程)
50代で 資格 取得の勉強を開始した為もっと早くに勉強しておけば良かった(59歳女性・事務)
若いうちに、将来役立つ 資格 を取得するための勉強をしなかった事(51歳女性・専門)
学生時代(時間がある時)にいろんな 資格 をとれるようにしてほしい(50歳女性・専門)
若い時に現在の職種の中でとれる 専門資格 をとっておけば良かった(59歳女性・事務)
将来何が起るか予測できないので 資格 をとっておくべきだった(50歳男性・事務)
ほぼ3年に1度、異動があり、事務でない、専門的な仕事につくことも多かったが、もう少し 勉強 すればよかったと思う(58歳女性・事務)
若い頃に色々な 資格 、 勉強 をして、どんな事にも対応出来るようにすればよかったと思う(55歳男性・生産工程)
学生生活でもっと 勉強 し不況に左右されない公務員の勉強をして受験して落ちた(52歳男性・専門)
もっと 勉強 して、しっかりやりたい事を見つけ仕事につけば良かったと思う(56歳男性・運輸)
50代で 資格 取得の 勉強 を開始した為もっと早くに 勉強 しておけば良かった(59歳女性・事務)
あまりないですが、学生時代にもっと 勉強 しておけば良かったと思う(52歳男性・専門)
最初にもっと 勉強 出来る環境に就職しスキルアップしておくべきだった(54歳女性・専門)
若いうちに、将来役立つ 資格 を取得するための 勉強 をしなかった事(51歳女性・専門)
PCをもっと 勉強 しなくては…これまでに使用する必要が無かった(51歳男性・その他)

また、「最も良かったと思うこと」「最も役に立った能力」でも、「資格」という語句は、頻出語句として、比較的、上位に挙げられている。若い頃に「資格」を取得したり、若い頃に「勉強」したりしておけばよかったという感じ方の裏返しで、逆に「資格」をとっておいて良かった、役に立ったという感じ方があることがうかがえる。

図表6-24は、「最も良かったと思うこと」で「資格」という語句が入っていた自由記述のうち文字数の多い回答を抜粋したものである。どの記述でも、何らかの資格をもつことが職業生活の助けになったということが書かれている。

図表6-24 「最も良かったと思うこと」に関する自由記述で

「資格」という語句が用いられている自由記述例

結婚後家庭に入り、専業主婦として生活。子供の手が離れ、介護の資格をとりパートのつもりが正社員。仕事をしながら上への 資格 を次々と取得。無理なく自然にスキルアップへ結びついていった(57歳女性・専門)
入院休職。組織にたよって生きていくことが無意味であることを自覚。以後外へ目をむけ、 資格 取得など社外でも生きられる力をつける方向へ転向できた(52歳男性・事務)
リハビリテーションの作業療法士という 資格 をとって、病院で仕事をした後、地方公務員になりやりがいのある毎日をすごしている(56歳女性・生産工程)
生活保護のケースワーカーの 資格 を取り、保護を受けている人達とその職を離れても交流し ていられることがうれしかった(58歳女性・事務)
専門職として 資格 (国家)が取得でき、認められる立場になったこと。人の気持ちがわかるよ うになったこと(50歳女性・専門)
看護師として 資格 を有し、仕事で発揮できた事。また人間関係に恵まれていろいろな友人がで きたこと(51歳女性・専門)
短大で学んだこと(資格)を生かした専門職につくことができ充実した職業生活をおくれたこと (50歳女性・事務)
失業保険をいただきながら勉強させてもらい、 資格 を取る事が出来就職に至った点(54歳男 性・事務)
経験や 資格 がとれて、それを生かすことができ建物ができた時にとても喜べること(52歳男 性・生産工程)
たまたま転職した勤務先でその職業に有効な様々な 資格 を働きながら取得した事(51歳女 性・専門)
パソコンに関する仕事につき、 資格 もとれたし、スキルもついた(51歳女性・販売)

図表6-25は、同様に「最も役に立った能力」で「資格」という語句が入っていた自由記述のうち文字数の多い回答したものである。資格だけが職業生活を送る上で役に立ったという訳ではないという記述もあるが、やはり総じて言えば資格をもっていたことが最も役に立ったという回答になっている。

図表6-25 「最も役に立った能力は」に関する自由記述で

「資格」という語句が用いられている自由記述例

色々な資格、調理師、ヘルパー、医療界での資格。しかし、どんな職業も、やる気と対人関係が一番だと思った(56歳女性・事務)
40才を過ぎた再就職のために取得した資格とパソコン(ワード・エクセル)を使えるように勉強したこと(50歳女性・事務)
機械の取扱い(故障・修理の技術力)や様々な機材の取扱いについて資格を保有していること(59歳男性・専門)
国家資格を生かした職場に従事できた。また、全体を統制する能力(方向性・調和性を含む)(51歳男性・専門)
水道関係の現在の仕事について時国家資格を2つとり生かしています。(工事責任者)(55歳男性・生産工程)
社会人になり学生とは違った物の見方をし、資格を取る過程で勉強のやり方も見についた(52歳男性・専門)
介護士の資格取得。母の介護の為にとったものが、実際今現在も助けられている(50歳男性・管理)
多少の経理が出来るので。簿記2級の資格をとったりして少しは役立っているかな…(59歳女性・事務)
誰でも扱えることではない化学薬品などの危険物を取り扱う資格があったこと(53歳男性・管理)
この年になっても再就職できるのは、やはり資格があるからだと思う(57歳女性・専門)
若い時になりたかった事の資格をとってそれが今も役にたっている(53歳男性・専門)

さらに図表6-26には、具体的にどのような資格が役に立ったと回答しているのかを、回答者の自由記述から抜き書きしたものである。多岐にわたるが、土木建築関連、電気水道工事関連、看護師・保育士・福祉関連、金融・不動産・税務・経理関連、パソコン関連の資格が目立つ。

図表6-26 「最も役に立った能力は」に関する自由記述で「資格」という語句が用いられている自由記述例内で具体的に挙げられた資格名

溶接免許資格	細胞検査師の資格
幼稚園教諭、保育士免許	公務員
薬剤師という資格	建築士(1級)
簿記2級	建築技術、資格があること
保母	経理的な資格
保育士	経理経験(簿記の資格)
土木関係の資格	金融関係の資格取得
土木一級の資格	教員免許
電気工事士 危険物取扱免許 自動車整備士免許	技術(技能士の資格)
電気関係の資格	危険物取扱者資格(乙、4種)
電気に関する資格	危険物をとり扱う資格
調理師としての資格	介護福祉士とケアマネージャー
調理師、ヘルパー、医療界での資格	介護福祉士
宅建主任者、建築施工管理技士	介護師
宅建	運転免許や毒劇物取扱者、危険物取扱者等の資格
正看ゴ師	一級土木施行管理技士
水道関係	一級建築士等の資格
自動車・フォークリフトなど	ホームヘルパー
資格を取得してそれを活用できた事	ピアノ、短大でとった資格
資格(不動産)	パソコン(ワード・エクセル)
資格(電検)を取った事。	パソコン
資格(社会保険労務士)	

※回答者の自由記述から抜粋。不正確な記述や厳密でない記述もそのまま掲載。

(3) これまでの職業生活に対する感じ方・考え方で共通して出現する語句

図表6-27左は、前掲の図表6-22をもとに「これまでの職業生活に対する感じ方・考え方」の各解答に共通して出現する語句を抜き出したものである。「後悔すること」「最も良かったと思うこと」「最も役に立った能力」の3つの自由記述に共通して出現頻度の高い語句として「仕事」「資格」「自分」「関係」「人間」があることが分かる。

これらの回答から、50代の回答者に自らの職業生活を振り返ってもらい、後悔することや良かったこと、役立った能力などについて記述をしてもらった場合、基本的には「自分」の「仕事」のことについて記述を行うが、その際、「資格」の「取得」や「勉強」、さらには「技術」や「経験」について記述する傾向があるということと言えるであろう。また、「人間」「関係」についても一定数の記述がみられる。

図表6-27 これまでの職業生活に対する感じ方・考え方に関する
自由記述に共通して出現する語句(左) および
「後悔すること」「最も良かったこと」「最も良かったこと」に関する
自由記述でのみ出現する語句(右)

3つの自由記述 全てに出現する 語句		「後悔すること は」にのみ 出現する語句	「最も良かったと 思うことは」にの み出現する語句	「最も役に立った能 力は」にのみ 出現する語句			
仕事	424	後悔	42	友人	46	能力	160
資格	322	退職	31	海外	39	知識	88
自分	231	大学	29	上司	38	パソコン	67
関係	189	最初	28	仲間	38	免許	51
人間	145	不足	26	生活	35	コミュニケーション	50
技術	127	結婚	23	部下	31	性格	33
経験	126	学生	20	収入	24	対人	32
勉強	124			成功	23	忍耐	27
取得	106			管理	21	運転	25
				企業	20	英語	21
						経理	20

図表6-27右には「後悔することは」「最も良かったと思うことは」「最も役に立った能力は」に関する自由記述のいずれかでのみ出現し、他の2つでは出現しない語句を挙げた。

「後悔することは」では「後悔」「退職」「大学」「最初」「不足」、「最も良かったと思うことは」では「友人」「海外」「上司」「仲間」「生活」、「最も役に立った能力は」では「能力」「知識」「パソコン」「免許」「コミュニケーション」がそれぞれ挙げられた。

「後悔すること」としては、様々なことが「後悔」されるのだと思われるが、なかでも「退職」に関連することが多いことが分かる。

図表6-28～図表6-30には、「後悔することは」「最も良かったと思うことは」「最も役に立った能力は」のいずれかでのみ出現する語句を含む自由記述例を挙げた。以下に、各表をみて特に考察すべき諸点について順に述べる。

第一に、図表6-28の「後悔すること」については、①「後悔」の語句が「後悔はない」という主旨で用いられている記述が一定数みられた。第5章のライフラインの分析でも触れたとおり、人は基本的には自らのキャリアをプラス方向で思い出すことが多いことと関連していると思われる。②また、「後悔すること」の記述において「退職」という語句が用いられる場合、そのほとんどが女性による結婚・出産に伴う退職に関するものであったことも特徴である。結婚・出産に伴う退職が、女性が職業生活上で後悔することの多くの部分を占めることが推測される。③さらに、「大学」と「最初」の語句は若干似たニュアンスの記述が多く、いずれも大学卒業時または卒業後の最初の職業選択を問題にしていることが多い。人が職業生活上の後悔をする際、自らの職業生活のそもそものスタートラインに言及する傾向があるということを、ここから考察することができる。④最後に、「不足」という語句で何らかの力不足・能力不足について言及する傾向も一定数みられていた。

図表6-28 「後悔すること」にのみ頻出する語句を含む自由記述例

後悔	後悔はない。ただ会社の組織の中で個人の力は“無”に等しいことを学んだ(後略)(50歳男性・管理) 自分は現場仕事が多くて、若い頃、無理した分、現在自分の体に多少なりとも負担が大きい。今、思えばもっと楽に、今、貰ってる給料位十分貰ってたらと少し後悔してる(56歳男性・生産工程) 色々な職についてきて、今の仕事にその技能を少しはとりいれる事が出来ているのかなと思っているので後悔はないです(57歳男性・生産工程) 結婚前に銀行・メーカー・広告代理店と大手の所を3回経験して勉強になったので、今は、後悔することはない(59歳女性・事務) 10年位前までは、キャリアへの認識と前向きな姿勢が甘く、もっと早くに取り組んでいたら…と後悔(53歳女性・事務)
退職	原則結婚退職だったがその後結婚しても就労できる雰囲気になったので最初の大企業に残ればよかった(52歳女性・事務) 退職金、厚生年金の制度のない会社であったため、20年間の勤務において、何も蓄積はなかった(51歳女性・専門) 最初に就職した会社を結婚で退職したが、結婚後も続けていればよかったと思う(56歳女性・生産工程) 退職したこと(一生働くことのできる職に就き、定年まで働くつもりだったが)(55歳女性・その他) 妊娠で出産のため退職したが、すぐに子供を作らずにもっと仕事を続けたかった(50歳女性・事務)
大学	大学卒業時に安易な考えで会社を選び、結局体質にあわず1年未満で辞めそれから転職が多くなった(55歳男性・生産工程) 大学選択の時に親の反対に負けず、やりたい道に進んで職業とすればよかったと後悔(53歳女性・生産工程) 本人の実力に関係なく学歴重視の社会なので、大学にいべきだったと思う(53歳男性・管理) 父の病気(胃ガン)の為大学4年で中退し、新聞社内定を看病の為、断った事(50歳男性・管理) 大学卒業後、すぐになった高校教師をやめなければ良かったかも?(52歳女性・専門)
最初	最初の進路を選んだ時に、もっと、よく考えておけばよかったと思っている(58歳女性・専門) 最初の会社をやめるときの、やめ方についてももっとうまくやるべきだった(54歳男性・保安) 最初にもっと勉強出来る環境に就職し、スキルアップしておくべきだった(54歳女性・専門) 最終的に体をこわして転職したが、最初の職業を続ければ良かった(50歳男性・販売) 最初にしっかりとしたキャリアプランが立てられなかったこと(54歳男性・管理)
不足	時間的、精神的余裕をもってテキパキとこなす力が不足だったことが多かった(53歳女性・専門) 自分の力不足で思うようにできなかった1年のこと(56歳女性・専門) 勉強不足による薬の効能効果を速答できなかった事(51歳女性・専門) 部下が仕事の不満で退社するマネジメント不足(54歳男性・管理)

第二に、図表6-29の「最も良かったと思うこと」では、①「友人」「上司」「仲間」などの言葉が目立つ。いずれの自由記述も職業生活上の最も良かったこととして、良い友人・上司・仲間に恵まれたことを述べている。「友人」「上司」「仲間」による記述内容の違いはほとんどなく、もっぱら女性が「友人」、男性が「仲間」という語句を用いる傾向があり、「上司」は広く用いられているという違いがあるのみと考察される。基本的に、職業生活上の最も良かったこととして、こうした人間関係面での記述が幅広くなされるということは、本章

の分析結果の大きな知見の1つとして強調しておきたい。②「海外」は仕事に伴う海外出張・海外旅行に関する記述が多い。職業生活において海外に行った経験とは少なからず本人にとって晴れやかな経験であるはずであり、そうした輝かしい印象が自由記述結果に表れたと言えよう。③「生活」という語句は、それに対して、平凡に着実に職業生活または家庭生活を送ってきたことそのものが最も良かったことであるという自由記述にみられる。こうした側面も自らの職業生活を良かったと感じるに際して重要な要素であると考えておくことができるであろう。

図表6-29 「最も良かったと思うこと」にのみ頻出する語句を含む自由記述例

友人	若い時に故郷を離れてそれなりに苦労はしているが、基本的に真面目で友人や上司に恵まれて、今でも交流があるくらい密に関わってきたこと(57歳女性・その他) 看護師として資格を有し、仕事で発揮できた事。又人間関係に恵まれているいろいろな友人ができたこと(51歳女性・専門) 違う職場でも友人が増えた。やめても友人でいられること(59歳女性・事務) 社会勉強ができた事。職場で信頼できる友人ができた事(55歳女性・専門) 機械修理、保金能力がいかせ、友人と改善出来た時(53歳男性・生産工程)
海外	バブル期に不動産に勤めていて、収入も良く、家も購入でき、海外旅行へも連れていってもらった(55歳女性・サービス) 仕入先の招待旅行(会員旅行)などで、海外旅行・国内旅行に参加出来た事(56歳男性・事務) 海外出張が多かった。他の国のカルチャーに触れる機会があった(51歳男性・販売) 海外をまわり、ある程度仕事を任せてもらえたこと(50歳男性・管理) 船で世界をめぐり、海外を見る知る事が出来た(52歳男性・管理)
上司	20代の時事務職をし、仕事はもちろん気くばりマナーなど上司の方から学びました。今、自分があるのはその時の影響があったからだと感謝しています(57歳女性・その他) 良い上司にめぐりあい、そのことで元気やパワーをもらって行動化できるようになったこと(51歳女性・専門) 科学的(エビデンスベースド)評価と対策ができる上司にめぐりあえたこと(59歳男性・専門) 各会社で、同僚、先輩、上司から受けた様々な影響、考え方(59歳女性・事務) 上司、先輩等に恵まれて業務ができることが多かった(52歳男性・その他)
仲間	職業訓練で電気の勉強を志す仲間が集まり、不安な中で技術力や考え方を教わりました(52歳男性・専門) いくつかの部署で仕事ができ、新しい仲間と知り合い、新しい経験ができたこと(51歳男性・管理) 協力してくれた仲間がまわりにいたということ。現在は家族にささえられている(50歳男性・管理) やりたかった仕事に就くことができ、いい仲間めぐりあえたこと(51歳男性・管理) 全国を転勤することで多くの仲間や知人が出来た(53歳男性・管理)
生活	私の場合、仕事=生活(お金)のためという面が大きかったので、仕事にそんなに重きを置いてきたわけではありません。仕事も今まで、パート期間が長く、子供中心を心がけてきたので子供が何の問題もなく、大きくなってくれたのが一番良かったです(50歳女性・販売) およそ30年位の間、数種類の職種の事務などの仕事をしてきましたが、それぞれの会社で、自分を必要としてくださる方々に出会い、支えてもらいながらここまで生活してこれた事(51歳女性・事務) 短大で学んだこと(資格)を生かした専門職につくことができ充実した職業生活をおくれたこと(50歳女性・事務) アメリカでの駐在生活で違った見方・考え方が出来る様に成った(50歳男性・管理) 安定した生活を送ることができる報酬が受けられていること(57歳男性・事務)

図表6-30 「最も役に立った能力は」にのみ頻出する語句を含む自由記述例

能力	<p>能力はないが、どんな時も聞き上手であり、どんな人に対しても心から誠心誠意をつくす事(自分のできる限りの)(57歳女性・販売)</p> <p>設計、営業、企画、開発マネジメントなど多くの職種で働いたことによるバランスがとれた判断能力(50歳男性・専門)</p> <p>国家資格を生かした職場に従事できた。また、全体を統制する能力(方向性・調和性を含む)(51歳男性・専門)</p> <p>この先の状況判断力。結論結果が解るなどイメージーションなどの能力が高まったと思う(56歳男性・生産工程)</p> <p>Word、Excel、PowerPointなどのプログラムソフトを使いこなせる能力(74歳女性・事務)</p>
知識	<p>基礎科学・情報技術の広範な知識・吸収力(深くはないが)。急激な技術-ITの進化に追従して仕事に役立てられた事(53歳男性・管理)</p> <p>趣味、知識、経験、興味のある事が現在の業務に活用出来ている(自動車、機械、メカニカルなもの好き)(50歳男性・管理)</p> <p>医療の知識がある事で、地域の方々のちょっとした心配ごと相談事が聞いてあげられた(51歳女性・専門)</p> <p>第一の就職先での知識経験が、第二の就職先で大いに役立った(50歳男性・管理)</p> <p>最初の就職先で得た経理実務の知識が現在も役立ってます(57歳女性・事務)</p>
パソコン	<p>10代の時の会社でタイプライターの仕事をしていた事から、40~50代に仕事の中でパソコンが使えるようになった事(51歳女性・事務)</p> <p>40才を過ぎた再就職のために取得した資格とパソコン(ワード・エクセル)をえるように勉強したこと(50歳女性・事務)</p> <p>事務職なので商業学校で習った事及び仕事でパソコンを少し出来るようになった事(53歳女性・事務)</p> <p>パソコンのオフィス用ソフトがある程度自由につかえる能力があった(58歳男性・事務)</p> <p>独学でパソコンを学習し、エクセルで変圧器のソフトを使ったこと(56歳男性・事務)</p>
免許	<p>調理の仕事をした時、調理師免許を習得。実生活に役にたち又給料もアップした事(51歳女性・生産工程)</p> <p>運転手として免許証大型と普通がある。ユニックの免許取得(59歳男性・運輸)</p> <p>資格取得。電気工事士、危険物取扱免許、自動車整備士免許(59歳男性・保安)</p> <p>運転免許や毒劇物取扱者、危険物取扱者等の資格(53歳男性・事務)</p> <p>運転免許(普通車、フォークリフト)取得(51歳男性・運輸)</p>
コミュニケーション	<p>コミュニケーション能力。身体を動かすことが好き。一生懸命。性善説。人をきらいにならない性格など(50歳女性・専門)</p> <p>コミュニケーション能力(部署が変わっても順応できる。友人すぐ作れる)。忍耐力(52歳男性・専門)</p> <p>誰とでもすぐ仲良しになれる。コミュニケーションはとれる方だと思う(59歳女性・生産工程)</p> <p>営業をする事で、人とのコミュニケーション力をつけられた事(58歳男性・生産工程)</p> <p>臆さず、人とコミュニケーションを取ろうと努める気持ち(56歳男性・管理)</p>

第三に、図表6-30の「最も役に立った能力は」では、①「能力」という語句で、他に具体的に言いようがないある程度抽象的な能力について言及されていることが多いと解釈される。例えば、表中でも「判断能力」「全体を統制する能力」「イメージーションなどの能力」など高度に抽象的な能力に関する言及がみられている。②「知識」では、具体的な知識内容が列挙されている。職業生活で最も役に立った能力として、何らかの知識が挙げられやすい

ということは、現代の知識社会・情報社会を象徴する結果と解釈できる可能性も残す。③「パソコン」も同様に情報社会において役立つ能力の端的な具体例として挙げられているものと解釈されよう。事務職に就く回答者によって集中的に記述がなされていたのも特徴である。③「免許」は先に詳しく検討した「資格」と同様、何らかの免許をもっていたことが最も役に立ったという自由記述内容になっている。④「コミュニケーション」の語句も、人とのコミュニケーション能力が役に立ったという文字どおりの記述内容ではあり、職場における重要な能力として挙げたという常識的な結果となっている。

(4) これまでの職業生活に対する感じ方・考え方の性別・年収別・満足感別の違い

図表6-31には、これまでの職業生活に対する感じ方・考え方の性別・年収別・満足感別の違いを示した。表は、前掲図表6-22に示した「後悔すること」「最も良かったと思うこと」「最も役立ったと思うこと」で出現頻度の高かった語句を、回答者がどの程度、自由記述内で用いているかを性別・年収別・満足感別にクロス表を作成して検討したものである。1%水準で有意な結果が示されたもののみを表に示した。なお、年収は「最近1年間の税込み年収」、満足感は「これまでの職業生活およびキャリアに対する満足感」について回答を求めたものであった。

表から以下の3点を指摘することができる。

第一に、性別による比較に着目すると、①「後悔すること」では、「資格」「仕事」「就職」「後悔」「退職」の出現頻度は女性が高く、「転職」の出現頻度は男性が高い。②「良かったこと」では、「関係」「人間」「資格」「就職」「職場」の出現頻度は女性が高く、「海外」「仲間」「部下」の出現頻度は男性が高い。③「役立ったこと」では、「パソコン」「仕事」の出現頻度は女性が高い。

第二に、年収による比較に着目すると、①「後悔すること」では、「資格」「収入」「後悔」「退職」の出現頻度は収入が少ないほど高い。②「良かったこと」では、「海外」「上司」「部下」の出現頻度は収入が多いほど高い。③「役立ったこと」では、「能力」「知識」「コミュニケーション」「専門」の出現頻度は収入が多いほど高い。「資格」「免許」「取得」の出現頻度は収入が少ないほど多い。

第三に、満足感による比較に着目すると、①「後悔すること」では、「資格」「転職」「就職」の出現頻度は満足感が低いほど多い。②「良かったこと」では、「仕事」の出現頻度は満足感が高いほど多い。③「役立ったこと」では、「能力」「コミュニケーション」の出現頻度は満足感が高いほど多い。

以上の結果を総合的に解釈すると、①女性・年収が低い回答者・これまでの職業生活やキャリアに対する満足感が低い回答者では、概して「資格」「転職」「就職」「退職」に対する「後悔」が多くみられ、一方、男性では「転職」に対する後悔が多くみられる。②女性では、最も良かったこととして「職場」の「人間」「関係」や「就職」「資格」が挙げられやすく、男

性では「部下」「仲間」または「海外」が挙げられやすい。なお、年収が高い回答者は「海外」「上司」「部下」の語句を用いやすかった。③女性では「パソコン」「仕事」の語句が役立ったこととして挙げられやすく、年収が高い回答者および満足感が高い回答者では「専門」「知識」や「コミュニケーション」「能力」の語句が役立ったこととして挙げられやすい。

図表6-31 これまでの職業生活に対する感じ方・考え方の性別・年収別・満足感別の違い

性別	男性	女性
	N=1532	N=518
後悔「資格」	4.4%	9.5%
後悔「仕事」	4.2%	7.3%
後悔「転職」	3.4%	1.2%
後悔「就職」	1.6%	4.1%
後悔「後悔」	1.4%	3.7%
後悔「退職」	0.6%	4.1%
良かったこと「関係」	3.3%	6.2%
良かったこと「人間」	2.9%	6.2%
良かったこと「資格」	1.8%	5.4%
良かったこと「就職」	1.4%	4.8%
良かったこと「職場」	1.7%	3.9%
良かったこと「海外」	2.3%	0.6%
良かったこと「仲間」	2.3%	0.6%
良かったこと「部下」	2.0%	0.0%
役立ったこと「パソコン」	2.3%	6.0%
役立ったこと「仕事」	2.2%	4.4%

最近1年間の税込み年収	～400万円	～600万円	～800万円	800万円以上
	N=569	N=495	N=417	N=539
後悔「資格」	9.5%	4.6%	4.6%	3.7%
後悔「就職」	3.5%	2.4%	2.2%	0.6%
後悔「後悔」	3.7%	1.4%	1.9%	0.7%
後悔「退職」	2.8%	2.0%	0.2%	0.2%
良かったこと「海外」	0.9%	1.2%	1.9%	3.7%
良かったこと「上司」	1.1%	0.8%	1.4%	4.1%
良かったこと「部下」	0.5%	1.2%	0.7%	3.5%
役立ったこと「能力」	3.7%	5.5%	8.9%	13.0%
役立ったこと「資格」	7.7%	9.9%	7.2%	3.5%
役立ったこと「知識」	2.3%	3.8%	4.3%	7.1%
役立ったこと「免許」	3.7%	3.6%	1.7%	0.4%
役立ったこと「コミュニケーション」	1.1%	1.0%	3.4%	4.5%
役立ったこと「取得」	3.7%	2.2%	2.4%	0.6%
役立ったこと「専門」	0.7%	1.2%	1.9%	3.5%

これまでの職業やキャリアに対する満足感	とても満足している	おおむね満足している	どちらとも言えない	あまり満足していない	全く満足していない
	N=59	N=980	N=636	N=280	N=39
後悔「資格」	0.0%	5.5%	5.7%	6.8%	20.5%
後悔「転職」	0.0%	1.1%	3.8%	6.4%	12.8%
後悔「就職」	0.0%	1.1%	3.1%	4.3%	7.7%
良かったこと「仕事」	18.6%	15.0%	8.2%	11.8%	5.1%
役立ったこと「能力」	15.3%	9.6%	4.7%	7.1%	2.6%
役立ったこと「コミュニケーション」	3.4%	3.8%	1.3%	0.7%	0.0%

※残差分析の結果、5%水準で有意に値が大きい箇所に網かけ、小さい箇所に下線を付した。

以上の結果からは、これまでの職業生活に対する感じ方・考え方と性別・年収・満足感との間に一定の対応関係があることが想定されたので、両者の関係を検討するために多変量解析の1つであるコレスポネンシ分析を行った。

図表6-32はコレスポネンシ分析の結果である。コレスポネンシ分析は対応関係がみられるものに近い数値を割り当てる分析であり、その位置関係によって対応関係を解釈することができる分析である。表から、以下の4点を指摘できる。

第一に、縦軸・横軸の数値がいずれもプラスの領域には「年収600~800万円」の回答者およびこれまでの職業生活に対して総じて「とても満足している」か「おおむね満足している」回答者が入っている。同じ領域には「コミュニケーション」「専門」「能力」「性格」「知識」が役立った、「上司」「転職」「仕事」が良かったという語句が並んでいる。ここでは職業生活に対する満足感と、コミュニケーションや専門知識、性格や能力といった本人がもつ様々な資質が相互に近しい関係にあり、それによってある程度十分な収入が得られている様が推察される。また、この領域では専門知識や能力が重視されるからこそ「勉強」や資格「取得」などに対する後悔も若干みられるといった解釈ができる。

第二に、縦軸がプラス、横軸がマイナスの領域には「年収800万円以上」「男性」の回答者が入っている。同じ領域には「部下」「海外」「仲間」「経験」が良かったという語句が並び、「対人」「人間」「技術」「関係」「経験」が役立ったという語句が並ぶ。年収の高い男性が良かったこととして挙げやすいものとして部下や仲間の存在、海外などを含む様々な経験があり、そうした人間関係や経験が役立ったと認識されやすい様子がうかがえる。

第三に、縦軸がマイナス、横軸がマイナスの領域には「年収400万円以下」「女性」の回答者が入っている。結婚・出産に伴って職業生活が分断されやすいために年収が低くなりがちな女性は、結婚や出産に伴う「退職」を後悔する一方、再「就職」をするにあたって「パソコン」などのスキルを「取得」することが役立ったと感じていると解釈される。また、仕事を継続してきた女性では「資格」があったことが良かったとも感じられている。さらに、「職場」の「人間」「関係」が良好で「友人」に恵まれたという感じ方もこの領域の特徴となっている。

第四に、縦軸・横軸の数値がいずれもマイナスの領域には「年収400~600万円」の回答者およびこれまでの職業生活に対して総じて「全く満足していない」~「どちらとも言えない」とした回答者が入っている。この領域では「会社」への「就職」や「転職」を後悔し、「資格」がないことを後悔し、「自分」の「職業」や「仕事」を後悔するといった語句が並ぶ。ただし、一方で「免許」や「資格」が役立ったとし、「職業」や「技術」が良かったとする語句も並ぶ。結局、この領域では、就職や転職などの自分の勤務先をめぐる感じ方が重要なポイントとなっており、その際、何らかの資格や免許があることが、とても役立つ良いことに感じられたということが表されていると解釈される。組織内外の移動を含むキャリアを歩んだからこそ、逆に資格や免許の重要性が認識されやすい層として解釈しておくことができるであろう。

後悔「退職」	-1.217	0.728		
良かった「就職」	-0.513	0.787		
後悔「後悔」	-0.396	0.853		
女性	-0.488	0.708		
良かった「資格」	-0.258	0.698		
良かった「職場」	-0.412	0.496		
年収「～400万円」	-0.704	0.153		
役立った「パソコン」	-0.306	0.525		
役立った「取得」	-0.465	0.263		
役立った「仕事」	-0.289	0.273		
良かった「人間」	-0.387	0.171		
良かった「友人」	-0.406	0.106		
良かった「関係」	-0.292	0.112		
<hr/>				
			とても満足している	0.763 0.741
			役立った「コミュニケーション」	0.831 0.596
			良かった「上司」	0.923 0.051
			役立った「専門」	0.761 0.096
			役立った「能力」	0.679 0.132
			役立った「性格」	0.235 0.431
			良かった「転職」	0.553 0.103
			役立った「知識」	0.632 0.002
			おおむね満足している	0.274 0.318
			良かった「仕事」	0.171 0.169
			後悔「勉強」	0.255 0.004
			年収「600～800万円」	0.165 0.078
			良かった「生活」	0.202 0.003
			良かった「自分」	0.049 0.111
			後悔「取得」	0.029 0.066
<hr/>				
全く満足していない	-1.307	-1.899		
後悔「転職」	-0.485	-1.393		
後悔「就職」	-0.979	-0.334		
役立った「免許」	-0.627	-0.525		
後悔「会社」	-0.347	-0.717		
後悔「職業」	-0.490	-0.561		
あまり満足していない	-0.458	-0.484		
良かった「職業」	-0.674	-0.027		
どちらとも言えない	-0.306	-0.332		
後悔「資格」	-0.574	-0.015		
年収「400～600万円」	-0.305	-0.255		
後悔「自分」	-0.124	-0.328		
後悔「仕事」	-0.403	-0.012		
役立った「資格」	-0.261	-0.149		
良かった「技術」	-0.168	-0.209		
役立った「自分」	-0.144	-0.204		
良かった「会社」	-0.150	-0.152		
			良かった「部下」	1.194 -0.547
			良かった「海外」	0.815 -0.589
			年収「800万円以上」	1.021 -0.004
			良かった「仲間」	0.667 -0.315
			役立った「対人」	0.751 -0.081
			良かった「経験」	0.440 -0.317
			役立った「人間」	0.526 -0.060
			男性	0.216 -0.295
			役立った「技術」	0.307 -0.119
			役立った「関係」	0.292 -0.078
			役立った「経験」	0.071 -0.206

※コレスポンデンス分析の結果を図示。数値は横軸(左)、縦軸(右)の値。値は相対的な位置関係を示し、値が近いほど相互に近い関係にあると解釈できる。

※「とても満足している」～「全く満足していない」はこれまでの職業生活やキャリアに対する満足感。

図表6-32 これまでの職業生活に対する感じ方・考え方と性別・年収・満足感の対応関係

7. まとめ

以上、本章では、自由記述データを用いて50代就業者のキャリアの意味づけについて検討を行った。

前半部分では「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」について、それは何歳頃のことだったのか、どのような出来事だったのか、どのように乗り越えたのか、その際に必要な支援は何だったのかなどに関して記述するように求めた自由記述データをもとに分析を行った。また、後半部分では、「これまでの職業生活に対する感じ方・考え方」について「これまでの職業生活で後悔することは」「これまでの職業生活で最も良かったと思うこと

は」「これまでの職業生活で最も役に立った能力は」の3つの側面に関する文章完成法課題を提示し、それに対する回答者の自由記述を分析した。

また、分析にあたっては、たんに内容を主観的に分類して並記するといった旧来の手法ではなく、現在、急速に分析方法が確立しつつあるテキスト・マイニング的な手法を用いた。具体的には、自由記述を単語単位にばらしてどのような単語が頻出するのかに焦点を当てて分析を進めた。

本章の分析結果は、以下の6点に集約される。

第一に、職業生活上の危機に関して、危機を迎えたのは40代であるという回答が最も多かったが、無回答のものも多く、10～50代まで幅広く危機を迎える可能性ある年代はあることが示された。特に、学歴が低い回答者、生産工程・建設などの職業に従事する回答者では比較的早い段階で職業生活上の危機を迎える者の割合が若干高かった。

第二に、危機の内容は、おおむね、(a)職場における人間関係上のトラブル、(b)自分の仕事内容に関するもの、(c)会社のリストラや倒産などに伴う退職に分類されるようであった。概して言えば、高年収・大企業など相対的に条件の良い勤務先に勤める者は会社内のトラブルが危機であるとし、逆に年収があまり高くなく、中小企業を勤務先とする者は倒産やリストラなどの雇用そのものをめぐる出来事を危機としやすかった。また、男性では会社や転職に関する事がらを、女性では人間関係や再就職に関する事がらを危機としやすかった。

第三に、危機をいかに乗り越えたかについて、①倒産やリストなどによる会社の退職・転職を伴うような危機は、まさに転職・退職することによって乗り越えられていたようであった。これらの危機と乗り越えは年収の低い層、勤務先の従業員数が少ない層で生じやすかった。②転勤を伴う部署の異動などによる仕事内容の変化、営業成績の低下、職場の上司との人間関係などの危機は、上司と相談するか、または自らの努力によって乗り越えられていたようであった。これらの危機と乗り越えは年収の高い層、勤務先の従業員数が多い層で生じやすかった。③上記の職場での危機とは別に、病気で入院するという個人生活上の危機も重大な職業生活上の危機となっており、これらの危機は家族の協力によって乗り越えられていた。ただし、上記のトラブルの中核には、自分の周囲の人間関係とのトラブルが含まれており、その解決の主体として自分または友人が、その主だった解決の1つとして退職があると解釈できるような結果もみられていた。

第四に、危機に際してあれば良かったと思う支援として、上司に対する相談、会社内の諸制度、自分に対する支援に関わるものが求められている可能性が示された。より具体的には、①倒産した際の「失業保険」、②上司のパワハラとその相談窓口の整備、③会社内の人間関係についての上司による支援に関わるものが支援として求められていると解釈できる結果であった。概して言えば、職場の「上司」は危機にもなりうる一方、支援にもなりうるのであり、今後の成人キャリア支援の1つの支店として、組織内における上司一部下関係に対する適切な支援介入ということが考えられる。

第五に、これまでの職業生活に対する感じ方・考え方について、「後悔すること」「最も良かったと思うこと」「最も役に立った能力は」の3つの自由記述に共通して「仕事」「資格」「自分」「関係」「人間」が挙げた。職業生活を送る上で、自分の仕事や人間関係が主たる関心事となることが改めて浮き彫りになった。注目すべき結果は「資格」に言及する回答者が多かった点である。「後悔すること」では資格をとらなかったこと、「最も良かったと思うこと」では資格をとったこと、「最も役に立った能力は」では資格をもっていたことがあがっており、自らの職業生活を語る上での重要な要素の1つとして、人々が「資格」に重きを置いていることがうかがえる結果となっていた。

第六に、特に、これまでの職業生活に対する感じ方・考え方は、性別・年収・満足感などでおおまかに4つの類型に分けることができるようであった。まず第一に、年収が高く（600～800万円）、これまでの職業生活に総じて満足している回答者層で、コミュニケーション能力や専門知識、性格などといった本人がもつ様々な資質が関連しあって、ある程度十分な収入に結びついている類型である。この類型では専門知識や能力が重視されるからこそ、若い頃の勉強や資格取得などに対する後悔も若干みられていた。②男性で年収がかなり高い（年収800万円以上）層で、部下や仲間の存在、海外などを含む様々な経験があり、そうした人間関係や経験が役立ったと認識している類型である。③女性で年収が低く（年収400万円以下）の回答者層で、結婚や出産に伴う退職を後悔する一方、再就職をするにあたってパソコンなどのスキルを取得することや資格などが役立ったと感じている類型である。また、職場の人間関係が良好で友人に恵まれたという感じ方もこの類型の特徴である。④年収が中程度（年収400～600万円）の、これまでの職業生活に総じて満足していない回答者層で、会社への就職や転職、資格がないことなど、自分の職業や仕事を後悔する傾向のみられる類型である。一方で、何らかの資格や免許があることが、とても役立つ良いことであったと感じていた類型でもあった。

本章のこれらの結果をうけて、成人キャリア発達およびその支援について、どのような示唆ができるだろうか。

第一に、全般的に離転職を伴うような危機は成人キャリア発達における最も重大な危機であり、そのことをいかに乗り越えるかは本人のキャリアに密接に関わりがあるようであった。また、本章の結果を集約した結果からは、その1つの対応策として「資格」や「免許」といったものが重要視されているようであった。こうしたニーズの背景には、離転職を伴うような職業生活上の重大な危機に際して、またはそうした危機に備えて、自分の職業能力を「資格」や「免許」という明確な形で認証してほしいという潜在的な期待があることがうかがえる。一般に、内的・主観的なキャリアといった場合、自らの職業経験や職業経歴に対する自分の中での了解や納得感をもって足りるものとして考えやすい。しかし、一般的には、自分なりに了解している自分だけの職業経験や職業経歴を、他人に向かって適確に示し、自分以外の人間にも理解しやすいような形で示せるようにしておきたいというニーズは幅広くみら

れるものと考えなければならない。ここにこそ、外的・客観的なキャリアというものを人が求めたいと思う1つの心理的な源泉があると言える。人は、自らが了解している内的・主観的なキャリアというものを、何かあった時のために何らかの形で外的・客観的なキャリアとして明示的に示せるようにしておきたいと望む。本章を通じて得られた「資格」や「免許」に対する回答者のこだわりといったものの背景に、上記のような心性を透かし見ることができるであろう。

第二に、本章の分析を通じて、ここでもやはり人間関係は1つの大きな焦点となっていた。これは、職場における人間関係上のトラブルが、たんに職場のいさかいやもめ事といった些事ではなく、むしろ、個人のキャリアの根幹を揺さぶる大きな躓きの1つであるということを示す。50代の回答者が自らのキャリアを振り返った際、人間関係が大きな問題としてクローズアップされてくる背景には、端的にはこうした身近の人間関係とのトラブルが日々の仕事上のストレスになるということがあろう。しかし、少し掘り下げて考えた場合、職場における日常の人間関係こそが、働くということの喜びにつながっているという面があることが理解される。例えば、本章の分析から垣間見られる結果では、職場の上司や部下、仲間や友人と力をあわせて楽しく働いている場合に、人は収入とは次元の異なる働く喜びを見出しているようであった。そして、50代の回答者はそうした思い出を一定の年月を経た後も、職業生活上の最も良かったこととして記述してきた。したがって、逆に人間関係に何らかの問題を抱えた場合、それは大きく人の働き方を揺るがすのだと思われる。

第三に、上記と関連して、職業生活上の重要な鍵を握る人間関係として、「家族」と「上司」があることに、特に触れておきたい。「家族」は職業生活を送る本人を支える個人生活上のサポートを提供する。したがって、職業生活を脅かす病気などにかかった場合、家族は支援を提供しつつ、本人とともに職業生活上の危機を乗り越えることとなる。また、家族はそうした意味での特別な支援を提供しない場合でも、人が働くにあたってのモチベーションの源泉として機能していることが、本章の結果の端々からうかがえた。職業生活と家庭生活のバランスをとるとは、こうした面での職業生活上の安全網を確保し、モチベーションの源泉を確保するということでもあろう。成人のキャリア発達を考える上で、本人のみならず、本人を含む家族全体を成人キャリア発達の枠組みの中で考えていくという視点もあると思われる。また、本章の分析の結果、職場の上司は危機にも支援にもなり得ていた。この場合も、本人のみならず、組織内における上司一部下関係そのものを成人キャリア発達の枠組みの中で考えていくに対する適切な支援介入ということが考えられる。このように、本人だけを周囲の対人関係から切り離して成人キャリアガイダンスの支援の対象として考えるのではなく、本人と家庭、本人と上司といったセットで考える、ある種のグループ支援的な視点は今後、成人キャリア発達とその支援の問題を考える上で1つの可能性のある方向性であると思われる。今後の課題としたい。

